

令和5年度第3回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議次第

- 日時：令和6年2月14日（水）
14時00分～
- 場所：本庁舎4階 中会議室

1 開 会

2 議 事

- ・若い世代に選ばれる MITO づくり総合戦略 － デジタル×まち・ひと・しごと創生（第3次）－ 素案について

【配布資料】

資 料 若い世代に選ばれる MITO づくり総合戦略 － デジタル×まち・ひと・しごと創生（第3次）－ 素案

参考資料① 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）の総合評価（中間報告）

参考資料② 「若い世代に選ばれる MITO づくり総合戦略」における主な具体的取組

参考資料③ 令和5年度第2回有識者会議における新たな総合戦略骨子（案）に係る意見及び対応について

参考資料④ 委員からの質問事項等について

水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

(素案)

若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略

- デジタル×まち・ひと・しごと創生 (第3次) -



このページは白紙です。

目次

第1 戦略の基本事項	1
第2 戦略の方向	3
第3 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化	5
第4 施策の展開	8
施策の柱Ⅰ しごとの創生	8
具体的施策1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出	9
具体的施策2 地域経済をけん引する各種産業の振興	10
具体的施策3 水戸のまちを楽しむ人を増やすことによるにぎわいの創出	11
具体的施策4 誰もが訪れたい魅力ある交流拠点の形成	12
施策の柱Ⅱ ひとの創生	13
具体的施策1 安心して子どもを産み育てることのできる環境の充実	14
具体的施策2 未来を生きる力を育む魅力ある教育の推進	15
具体的施策3 子ども・若者が活躍できる機会の創出	16
施策の柱Ⅲ まちの創生	17
具体的施策1 生き生きと健やかに暮らせる環境づくり	18
具体的施策2 安全に暮らせる環境づくり	19
具体的施策3 居心地がよく快適に暮らせる環境づくり	20
施策の柱Ⅳ シティプロモーション	21
具体的施策1 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション	22
第5 各施策をより効果的に推進するためのデジタル化・DX	23
第6 推進体制と進行管理	25
付属資料	27
1 SDGs (持続可能な開発目標)	27
2 市総合計画及び国関連法令・計画等から見る本戦略の位置付けと役割	28
3 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料	30
4 総合戦略策定に係る経過と推進体制	34

第1 戦略の基本事項



1 策定の趣旨

本戦略は、将来的な人口減少が避けられない中、近年のテレワークの普及や地方移住への関心の高まりをはじめとする社会情勢の大きな変化等を踏まえながら、若い世代の人口流入の促進、人口流出の抑制を図ることで、バランスのとれた人口構造とし、将来にわたってまちの活力を高めていくことを目的として策定するものです。本戦略に基づき、若い世代に選ばれる魅力あるまちの構築に向け、実効性の高い施策を積極的かつ集中的に推進します。

2 期間

本戦略は、2028（令和10）年度を目標年度とし、期間は、2024（令和6）年度から2028（令和10）年度までの5年間とします。

3 基本的な考え方

本戦略は、水戸市第7次総合計画に掲げた将来都市像「こども育む 暮らし楽しむ みらいに躍動する 魁のまち・水戸」の実現を目指していくことを基本とします。さらに、これまでの「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2015（平成27）年度に第1次を策定）における取組の成果、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略である「デジタル田園都市国家構想総合戦略」における施策の方向を踏まえ、「まち・ひと・しごとの好循環」、「若い世代に選ばれるしごとの創生及びシティプロモーションの重点化」、「デジタル化・DXによる各施策の推進」の三つの視点を基軸とした戦略とします。

また、本戦略は、SDGsの理念を踏まえながら、DX、GXなど、新たな時代の課題にも積極的に対応した「持続可能なまちづくり」を推進することとしています。

【参 考】

「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（2022（令和4）年12月23日閣議決定）

施策の方向	デジタルの力を活用した地方の社会課題解決	デジタル実装の基礎条件整備
	デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化 スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）、スマート農林水産業・食品産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出 等	デジタル実装の前提となる取組を国が強力に推進
1	地方に仕事をつくる スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）、スマート農林水産業・食品産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出 等	1 デジタル基礎の整備 デジタルインフラの整備、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大、データ連携基盤の構築（デジタル社会実装基盤全国総合整備計画の取組等）、ICTの活用による持続可能性と利便性の高い公共交通ネットワークの整備、エネルギーインフラのデジタル化 等
2	人の流れをつくる 「転居なき移住」の推進、オンライン関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、地方大学・高校の魅力向上、女性や若者に選ばれる地域づくり 等	2 デジタル人材の育成・確保 デジタル人材育成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成、デジタル人材の地域への還流促進、女性デジタル人材の育成・確保 等
3	結婚・出産・子育ての希望をかなえる 結婚・出産・子育ての支援、仕事と子育ての両立など子育てしやすい環境づくり、こども政策におけるDX等のデジタル技術を活用した地域の様々な取組の推進 等	3 誰一人取り残されないための取組 デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現、経済的事情等に基づくデジタルバイトの選定、利用者視点でのサービスデザイン体制の確立 等
4	魅力的な地域をつくる 教育DX、医療・介護分野DX、地域交通・インフラ・物流DX、まちづくり、文化・スポーツ、防災・減災、国土強靱化の強化等、地域コミュニティ機能の維持・強化等	

基軸とする三つの視点

(1) まち・ひと・しごとの好循環

ア しごとの創生

雇用の創出や各種産業の振興を図るため、創業・スタートアップ支援、企業誘致等により事業所数の増加を促すとともに、地域経済の中核を担う地元企業等の経営基盤強化や生産性向上に向けた支援を行うほか、様々なライフスタイルにあわせた働きやすい環境づくりに取り組みます。あわせて、魅力ある地域資源を活用しながら、戦略的な観光振興をはじめとしたにぎわいの創出にも取り組み、地域経済のより一層の活性化を図ります。

イ ひとの創生

子どもを生みたいと望む人が、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに取り組み、まち全体で子育てを応援する機運を醸成します。あわせて、一人一人の個性を伸ばす教育や郷土を愛する心を育てる教育、多様な体験機会の提供等を通して、子ども・若者の健やかな成長を確かなものとし、未来を創る力を育みます。

ウ まちの創生

誰もが生涯を通して生き生きと健やかに暮らすことができる環境づくりに取り組むほか、あらゆる事態に備えた危機管理体制の強化を図ります。あわせて、時代の変化に対応した都市構造や交通ネットワークの構築、ゼロカーボン・エコシティの実現等により、快適なまちづくりを進め、誰もが安心して暮らすことができるまちを目指します。

これら三つの取組を深化、加速化することにより、「しごとの創生」「ひとの創生」「まちの創生」が相互に効果を高め合う「まち・ひと・しごとの好循環」を生み出していきます。

(2) 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出及びシティプロモーションの重点化

市民1万人アンケートや国が実施した地方移住者の意識調査の結果（※）等によると、若い世代が移住・定住先となる地域を選択するに当たっては、仕事や子育て環境、生活の利便性、娯楽、人とのつながりなど、様々な要因が影響していることが分かります。その中でも、本市において、若い世代の人口流入の促進、人口流出の抑制を図るためには、特に働く場の確保、雇用環境の充実が大きな課題となっています。

これらを踏まえ、本戦略においては、「しごとの創生」のうち、魅力ある多様な働く場があり、様々なライフスタイルで暮らすことができるまちの実現に優先的に取り組むとともに、「まち・ひと・しごとの好循環」により高める水戸の魅力を効果的に発信し、若い世代に住みたい、ずっと住み続けたいと思われるシティプロモーションを図ることに重点を置き、若い世代の移住・定住を加速させていきます。

(3) デジタル化・DXによる各施策の推進

デジタル技術は、地域社会の生産性や利便性を飛躍的に向上させ、地域の魅力を高める力を持っていることから、あらゆる分野で積極的に活用し、本戦略における各施策をより効果的に推進していくことにより、「まち・ひと・しごとの好循環」の実現を支えます。

※ P30 付属資料「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」参照

第2 戦略の方向

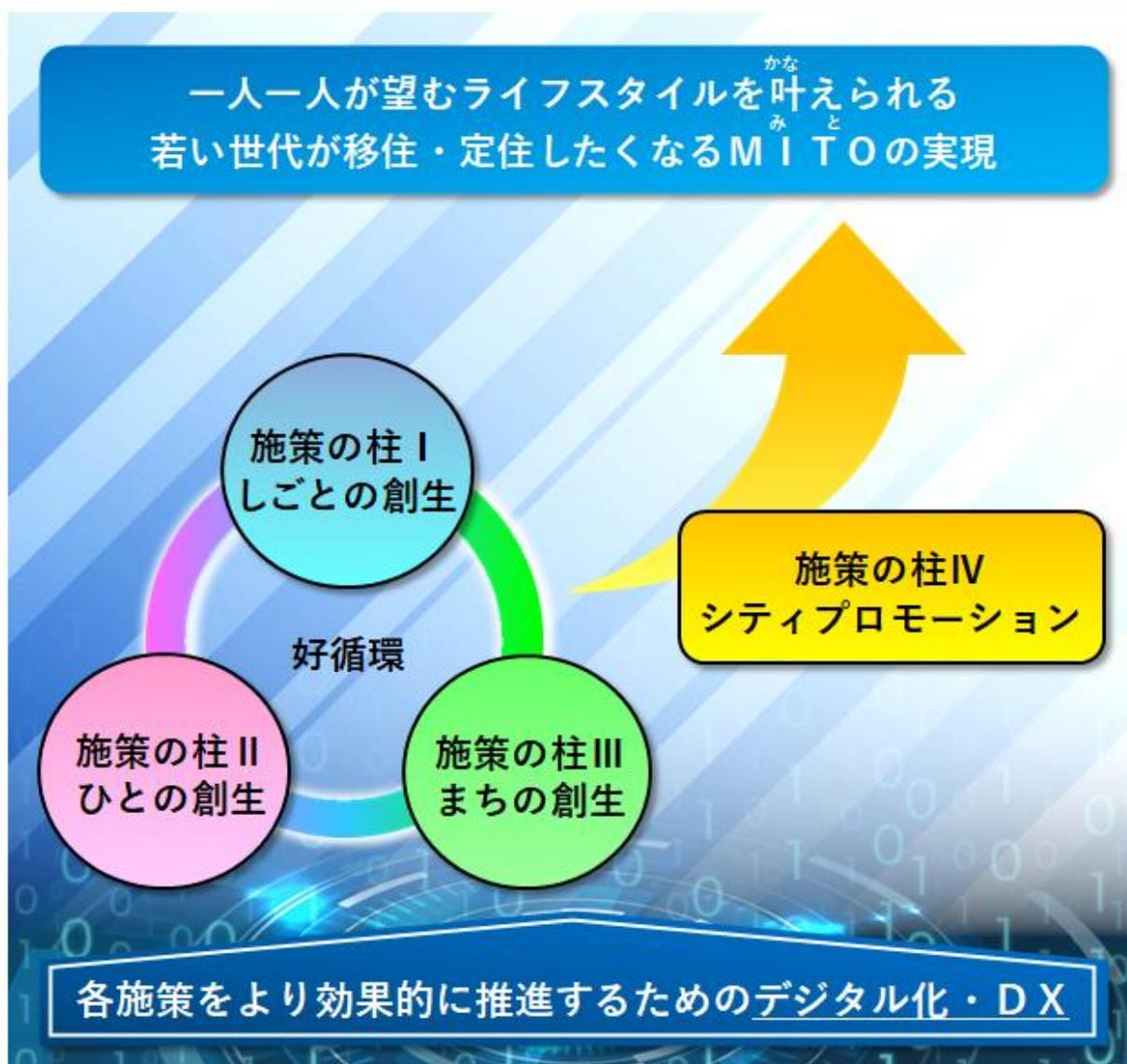


1 目指す姿

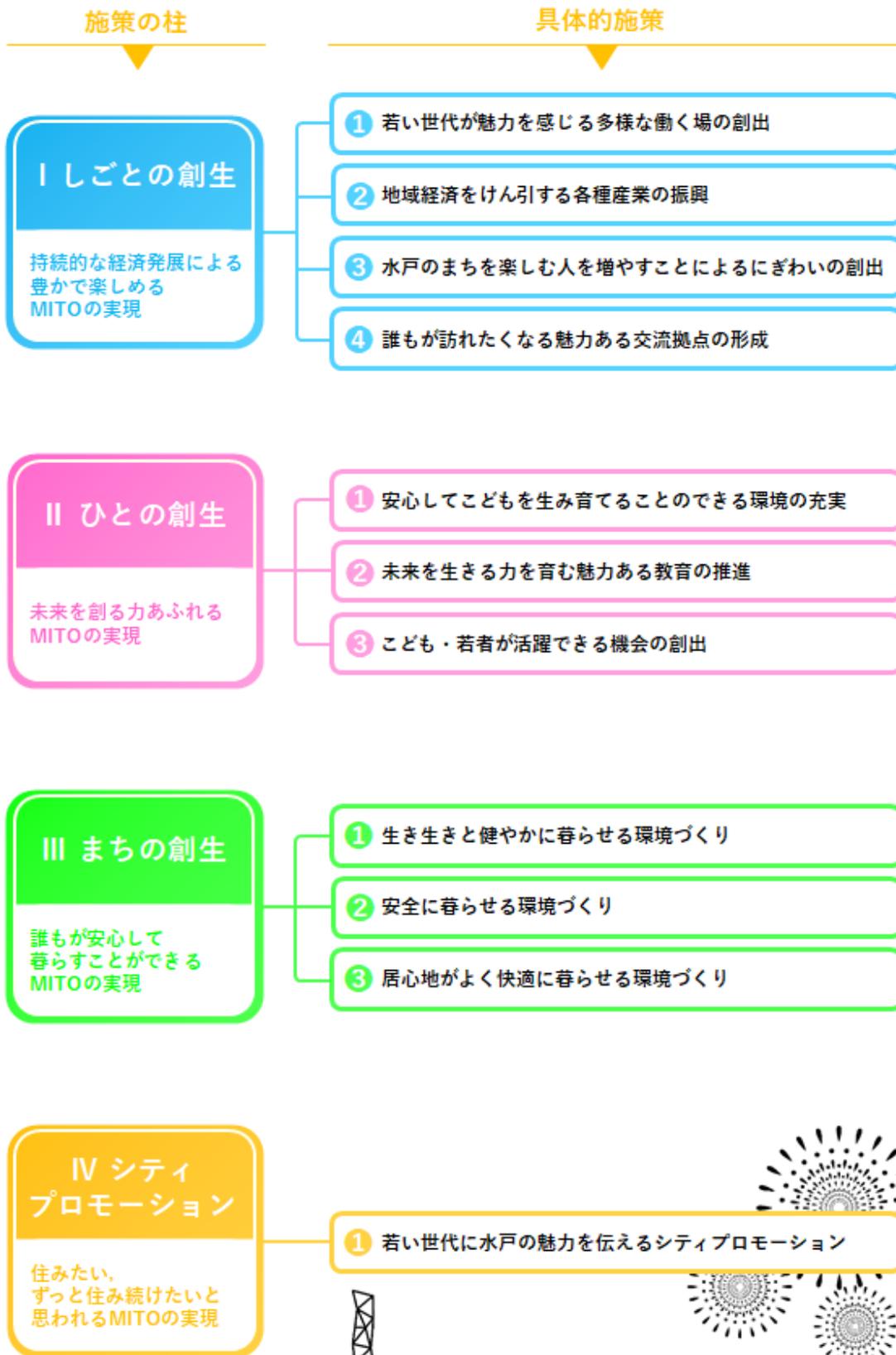
一人一人が望むライフスタイルを叶えられる
若い世代が移住・定住したくなるMITOの実現

本戦略においては、若い世代に選ばれる魅力あるまちの構築に向け、実効性の高い施策を積極的かつ集中的に推進することにより、誰もが希望する働き方や暮らしを実現でき、安心して子どもを生み育てることもできる、若い世代が移住・定住したくなるまちを目指します。

2 総合戦略全体のイメージ



3 施策の体系



第3 若い世代の移住・定住を加速させる 取組の重点化

本市は都市づくりの基本理念として、将来にわたって発展し、暮らしたいと思える都市としていくため、水戸の未来を創っていく全ての子どもたちをまち全体で育み、若い世代に選ばれる魅力あるまちとしていくことに最重点で取り組むこととしています。その実現に向けては、若い世代の本市への移住・定住を加速させていくことも大変重要です。

2020（令和2）年度に国が行った地方移住者の意識調査では、「地方移住を意識したきっかけ」として、就職活動や転職、転勤が上位に挙げられているほか、「地方移住の決断に影響を与えた要素」として、「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」及び「納得できる給与水準の仕事が見つかったこと」が上位に挙げられており、地方移住においては、仕事の影響が大きいことが分かります。

また、2022（令和4）年度に本市が行った市民1万人アンケートでは、「水戸市の印象」として、「魅力ある企業が多い」及び「商業が盛んで活力を感じる」が下位となっているほか、「施策の現状に対する満足度」として、「商業の振興（新たな店舗の開業など）」や「雇用対策の充実（就業機会の創出など）」、「工業の振興（新たな企業の進出など）」の評価が低く、水戸市からの転出に影響を与えているものと考えられます。

さらに、2022（令和4）年度に本市と茨城大学、常磐大学が行った「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」では、若者の茨城県央地域における転出理由及び転入理由において、「仕事」が大きな要因であることが示されたほか、大規模な企業や情報通信業の企業が多い地域は若者の転入率が高いとし、企業誘致や企業支援に関する提言もなされました。

【地方移住者（UJIターン者）の意識調査】

Q17 あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけ 上位の項目（20項目中）

就職活動（新卒）…UJターン：11.0%（4位），Iターン：14.9%（2位）

転職・求職活動（新卒以外）…UJターン：9.0%（5位），Iターン：5.5%（8位）

自身の転勤…UJターン：13.0%（2位），Iターン：14.9%（2位）

Q23 あなたが地方に住むという決断をした際に、影響を与えた要素 上位の項目（14項目中）

希望する職種・業種の仕事が見つかった…UJターン：31.2%（1位），Iターン：25.3%（2位）

納得できる給与水準の仕事が見つかった…UJターン：17.3%（3位），Iターン：9.7%（6位）

【あなたと描く水戸の未来－市民1万人アンケート－】

1-1 水戸市の印象 評価が下位の項目（27項目中）

商業が盛んで活力を感じる…20歳代：2位，30歳代：2位，40歳代：2位

魅力ある企業が多い…20歳代：3位，30歳代：4位，40歳代：4位

2-3-1 施策の現状に対する満足度 評価が下位の項目（38項目中）

雇用対策の充実（就業機会の創出など）…20歳代：2位，30歳代：3位，40歳代：2位

商業の振興（新たな店舗の開業など）…20歳代：3位，30歳代：1位，40歳代：1位

工業の振興（新たな企業の進出など）…20歳代：4位，40歳代：5位

※詳細はP30 付属資料「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」参照

これらの結果を踏まえ、本戦略では、「しごとの創生」のうち、「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」に優先的に取り組みながら、「まち・ひと・しごとの好循環」を生み出すことで、水戸ならではの産業の振興や文化の醸成を図り、水戸の魅力を高めていきます。あわせて、その魅力を若い世代に伝える効果的なシティプロモーションを展開し、ブランド力を高めていくことで、若い世代の本市への移住に向けた意識の向上を図るとともに、市民のシビックプライドを育みます。これらに取り組むことで、本市への若い世代の移住・定住を加速させていきます。

1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出

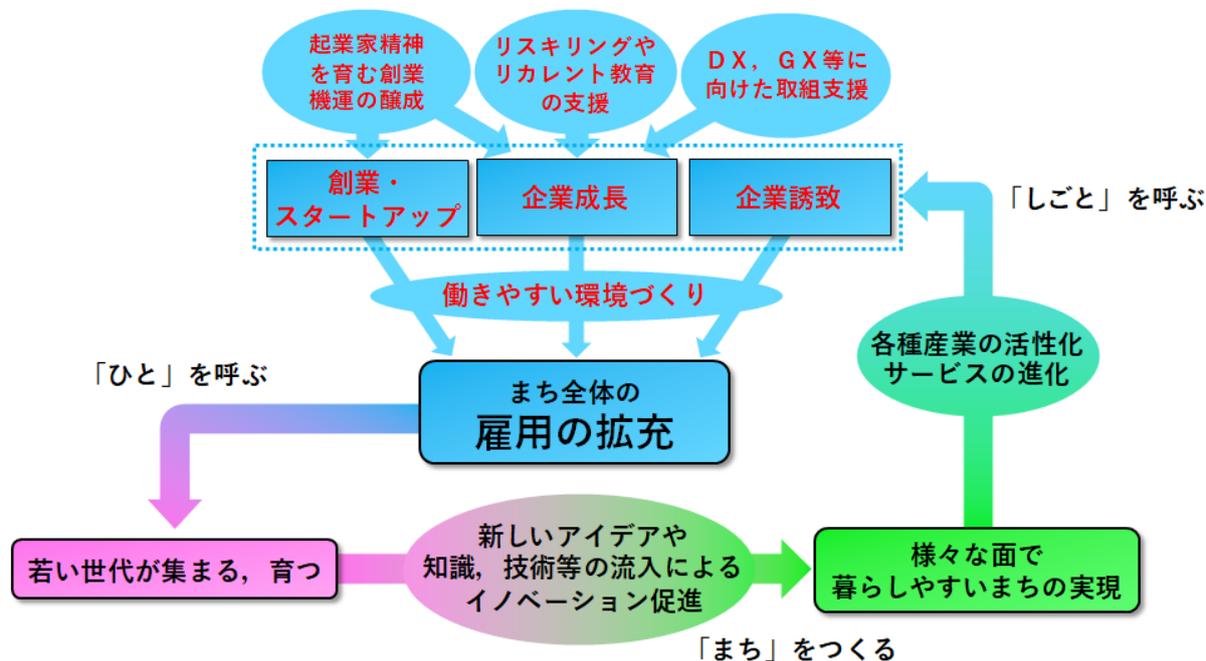
若い世代の移住・定住には、「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」が求められています。

そのため、本市では、創業・スタートアップの促進や市内企業の成長支援、企業誘致に積極的に取り組むとともに、様々なライフスタイルに応じて働くことのできる環境づくりを進め、まち全体の雇用の拡充に優先的かつ重点的に取り組みます。

そのことによって、新しいアイデアや知識、技術等を持った若い世代が集まり、地域のイノベーションが促進され、各種産業の活性化やサービスの進化が起きることで、新たな働く場の創出につながっていく「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の視点から見た「まち・ひと・しごとの好循環」を生み出していきます。

また、まち全体の雇用の拡充に向けた新たな取組として、本市では、関係機関等と連携しながら、若い世代の起業家精神を育む創業機運の醸成に取り組むほか、市内企業の成長を促進するため、DX、GX等に向けた取組の支援にも力を注いでいきます。さらには、リスクリングやリカレント教育といった企業の成長につながる知識の習得を支援するなど、若い世代の力となり、更なる活躍を後押しするための取組を推進していきます。

【「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の視点から見た「まち・ひと・しごとの好循環」のイメージ】



2 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション

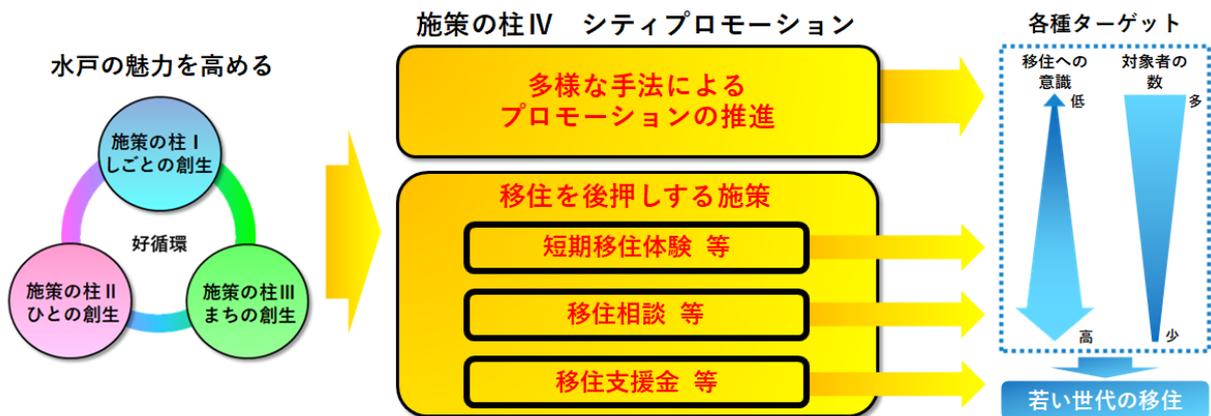
若い世代の移住・定住の促進に向けては、働く場の情報をはじめ、本市の多様な魅力をより多くの若者に伝え、本市に住みたい、ずっと住み続けたいと感じてもらう必要があります。

そのため、水戸の魅力を幅広く高めることはもちろん、居住地を変えるきっかけとなる進学や就職、結婚等のライフイベントのタイミングにあわせ、一人一人が望むライフスタイルに応じた本市の魅力を伝える戦略的なシティプロモーションに取り組むことが重要です。

このことを踏まえ、本市では、多様な手法によるプロモーションの推進とともに、移住への意識が高まった方に対する移住を後押しする施策の推進のほか、魅力ある働く場のPR等に重点的に取り組みます。

また、そのうちの新たな取組として、高校や大学が多く立地する本市の特色を生かし、若い世代と本市がつながり続けるプラットフォームを構築し、市内への通学等により、本市と関わりがある若い世代の参加を促進していきます。このプラットフォームの活用により、本市に住み続けることや、進学や就職等で本市から離れたとしても、本市への関心を維持し、将来的に戻ってくることを選択する「みとりターン」の促進に積極的に取り組んでいきます。

【若い世代の移住に向けた戦略的なシティプロモーションのイメージ】



【若い世代が水戸市とつながり続ける新たなプラットフォームのイメージ】



※「みとりターン」・・・市内教育機関に通うなど、本市に関わったことのある若い世代が水戸に戻ってくること、または定住すること。

第4 施策の展開

施策の柱Ⅰ しごとの創生

基本目標

持続的な経済発展による豊かで楽しめるMITOの実現

基本的方向

○ 創業・スタートアップ支援や企業誘致をはじめとした多様な働く場の創出等に取り組み、若い世代の更なる活躍を後押しするとともに、様々なライフスタイルに応じて働くことができる環境づくりに取り組みます。 >> 具体的施策 1

○ 商工業、観光業、農業など、あらゆる分野の産業において、経営基盤強化や生産性向上に向けた支援を行うとともに、地域の資源や特性を生かした施策を展開し、地域経済をけん引する各種産業の振興に取り組みます。 >> 具体的施策 2

○ 魅力ある地域資源を最大限活用し、戦略的な観光振興、コンベンション誘致に向けた取組を推進するとともに、芸術文化、スポーツの一層の振興を図り、にぎわいの創出による地域経済の活性化に取り組みます。 >> 具体的施策 3

○ 水戸らしい風格を感じられる歴史まちづくりをはじめ、芸術文化の発信拠点である Mitori0 やスポーツ施設の魅力向上、自然に親しみ安らげる環境づくりを推進し、魅力ある交流拠点の形成による地域経済の活性化に取り組みます。 >> 具体的施策 4

数値目標

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
実質市内総生産 (年間) ※資料：茨城県市町村民経済計算	1,244,490 百万円 (2020 (令和2) 年度)	1,420,800 百万円
観光消費額 (年間) ※資料：茨城県観光客動態調査	136 億円 (2022 (令和4) 年) ※159 億円 (2019 (令和元) 年)	200 億円 (2028 (令和10) 年)

※新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた項目については、基準値のほか、参考として2019 (令和元) 年の数値を記載

重点



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
創業支援事業計画推進事業等による 新規創業件数 (累計)	740 件	1,490 件
企業誘致による立地事業所数 (累計)	25 事業所	43 事業所

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
創業・スタートアップ 支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 起業者精神を育む創業機運の醸成 創業に関する包括的支援の推進 多様なニーズを踏まえた創業支援拠点の機能強化 	市 関係機関 関係団体 事業者
中小企業の成長支援	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の経営革新・経営基盤強化支援 リスクリングやリカレント教育の支援による人材の育成 円滑な事業承継の促進 D X 推進等による企業の生産性向上支援 	市 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村
企業立地の促進	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致活動の推進 サテライトオフィス等誘致活動の推進 新たな誘致先用地の確保 	市
ライフスタイルに あわせた働きやすい 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが働きやすい環境づくり 子育て世帯が安心して働ける環境づくり 女性が活躍できる環境づくり 仕事と介護を両立できる環境づくり 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者

※「市」・・・市

※「市民」・・・広く一般に市民

※「関係機関」・・・国, 県, 大学, 行政機関の外郭団体 等

※「関係団体」・・・ボランティア団体, 市民団体, 各産業団体 等

※「事業者」・・・企業, 非営利活動法人 等

※「構成市町村」・・・いばらき県央地域連携中枢都市圏構成市町村



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
市内製造品出荷額 (年間) ※資料：経済センサス・工業統計調査	126,471 百万円 (2020 (令和2) 年)	137,900 百万円 (2028 (令和10) 年)
新規就農者数 (年間)	10 人	10 人

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
商工業の経営力強化	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化による地域経済好循環の推進 ものづくり産業の振興 新たなビジネスモデルの創出 地域産業系拠点の機能強化・集積促進 	市 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村
観光業の強化	<ul style="list-style-type: none"> 観光特産品の魅力向上 伝統産業の振興 観光特産品の販路拡大 	市 関係機関 事業者 構成市町村
安心な食を支える 農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 未来に向けたチャレンジへの支援 農業経営安定化に向けた支援の充実 農産物のブランド化の推進, 販路拡大 	市 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村
商店街活性化の支援	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の活用をはじめとした商店街活性化支援 	市 関係団体 事業者
公設地方卸売市場の 活性化	<ul style="list-style-type: none"> 公設地方卸売市場の利用促進 デジタル技術の活用等による公設地方卸売市場の機能強化・再整備 	市 関係団体 事業者



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
にぎわい交流人口 (年間)	2,615,965 人 (2021 (令和3) 年度) ※5,415,336 人 (2019 (令和元) 年度)	6,400,000 人
誘致・支援したコンベンション開催数 (年間)	52 件 ※70 件 (2019 (令和元) 年度)	80 件

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
まちなかの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・経済循環を生み出すにぎわいづくり ・まちなかにおける多様な活動促進 ・魅力的なまちなかの空間づくり 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
戦略的な観光事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々が訪れたい魅力づくり ・経済効果を高める稼ぐ力の強化 ・ターゲットに応じた戦略的観光PR 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村
コンベンション等の誘致推進・開催支援	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化、スポーツ、学術といった多様な分野のコンベンション等の誘致推進 ・主催者等のニーズを踏まえたコンベンション支援の充実 	市 関係機関
芸術文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・MitoriO を拠点とする芸術文化の創造・発信 ・水戸ならではの芸術文化活動の促進 	市 市民 関係機関 関係団体
スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じたにぎわいの創出 ・市民がスポーツを楽しめる環境の充実 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
水戸市民会館来館者数 (年間)	—	1,000,000 人
アダストリアみとアリーナ来館者数 (年間)	254,000 人	270,000 人

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
文化資源を生かした 交流拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> • 芸術文化の発信拠点 MitoriO の魅力向上 • 誰もが楽しめるスポーツ施設の魅力向上 • 歴史的資源の活用によるまちの魅力向上 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
自然を生かした 交流拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> • 偕楽園・千波湖周辺地区の魅力向上 • 植物公園周辺地区の魅力向上 • 森林公園周辺地区の魅力向上 • 豊かな自然を生かした公園等の魅力向上 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者



スポーツコンベンションの拠点となる
アダストリアみとアリーナ



千波湖から望む偕楽園

施策の柱Ⅱ ひとの創生



基本目標

未来を創る力あふれるMITOの実現

基本的方向

- 結婚，妊娠，出産，子育てにおける切れ目のない支援や子どもたちをまち全体で育む環境づくりを通し，子どもを生みたいと望む人が安心して子どもを生き育てることができるまちづくりに取り組みます。 >> 具体的施策1
- 子どもたちの学力向上をはじめ，一人一人の個性を伸ばす教育の展開による夢の実現を応援する環境づくりや郷土を愛する心を育てる教育の推進等を通し，子どもたちの未来を生きる力を育みます。 >> 具体的施策2
- 子ども・若者に対する多様な体験機会の提供やボランティア活動等への参加促進に積極的に取り組み，様々な経験を得る機会を創出することで，子ども・若者の未来を創る力を育みます。 >> 具体的施策3

数値目標

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
年少人口 (0～14歳)	33,628人 (2022 (令和4) 年 10月1日)	34,000人
18歳以下の子を持つ18～39歳 (生産年齢人口の概ね前半) の子育て世帯の社会動態 (転入数－転出数)	▲9世帯 (2022 (令和4) 年)	150世帯 (2028 (令和10) 年)



親子が交流する
市民センター子育て広場



タブレット端末の活用をはじめとした
水戸市版「GIGAスクール構想」



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
合計特殊出生率	1.34 (2022 (令和4) 年)	1.78 (2028 (令和10) 年)
子育て支援・多世代交流事業利用者数 (年間)	33,184 人 ※91,197 人 (2019 (令和元) 年度)	100,000 人

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
子育て世帯の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに係る経済的支援の充実 安心と利便性を感じる子ども・子育てDXの推進 	市 関係団体
多様なニーズに対応した相談支援等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保健, 医療, 福祉, 保育, 教育などの関係機関と連携した包括的な相談支援の充実 子どもの健康や発達に関する支援の充実 子どもや家庭を取り巻く社会的課題への対応 	市 関係機関 関係団体 事業者
地域で育む子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズに応える子育て支援サービスの推進 親子で楽しめる子育て支援拠点づくり 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
安心して預けられる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 安全で質の高い幼児教育・保育サービスの推進 放課後児童の居場所づくりの推進 	市 事業者
妊娠・出産, 小児・周産期医療等に係る支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠, 出産に関する多様な支援 安心できる小児医療・周産期医療等の充実 	市 関係団体 構成市町村
結婚支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> 結婚支援事業の推進 	市 構成市町村



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
全国学力・学習状況調査平均正答率 (小6・中3)	(小6) 国語 -0.6 算数 -3.2 (中3) 国語 +1.0 算数 -1.4	全国平均 +0.5
いじめ解消率 (フォローアップ調査後)	100%	100%

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
水戸スタイルの教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学びと学習意欲を高めるチャレンジプランの推進 世界で活躍できる資質を磨くグローバルプランの推進 郷土を愛し、豊かな感性を磨くキャリアプランの推進 いのちや人権を大切にするふれあいプランの推進 	市
豊かな人間性を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 水戸産品を取り入れた魅力的な学校給食を通じた食育の推進 豊かな心を育む文化教育の推進 健やかな心と体を育む環境づくりの推進 地域と連携した教育環境づくりの推進 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
快適な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 快適な学習環境を支える学校施設整備の推進 屋内運動場への空調設備設置の推進 	市
多様な教育活動を支える体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 不登校支援・教育相談体制の充実 一人一人の教育的ニーズを踏まえた特別支援教育の充実 質の高い教育体制の構築 	市 関係機関 関係団体 事業者



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
少年自然の家の利用者数 (年間)	14,000 人 ※26,319 人 (2019 (令和元) 年度)	30,000 人
大学生等を対象とした政策提言発表会への参加者数 (累計)	—	10 組

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
子どもたちの 多様な体験活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> 市民団体等と連携した多様な体験活動の促進 少年自然の家を活用した豊かな自然体験の推進 	市 市民 関係団体 事業者
子ども・若者が 主体的に活動できる 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・若者が活躍したくなる環境づくり 子ども・若者の健やかな成長を支える取組の推進 子どもの挑戦を応援する仕組みづくり 	市 市民 関係団体 事業者
若い世代との協働 によるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 若者との協働による地域課題の解決に向けた取組の推進 若い世代からの広聴機会の充実 	市 市民 関係機関



少年自然の家における自然体験



大学生によるまちづくりについての政策提言

施策の柱Ⅲ まちの創生



基本目標

誰もが安心して暮らすことができるMITOの実現

基本的方向

○ 市民の命と健康を守る医療提供体制の維持・確保や一人一人の健康づくりに取り組むとともに、地域コミュニティやNPO等による市民活動を促進しながら、地域で支えあい、助けあう環境づくりを進めます。

>> 具体的施策 1

○ あらゆる事態に備えた危機管理・防災対策をはじめ、消防や救急、救助等の緊急時の対策を強化するとともに、交通安全・防犯等の充実を図ることで、市民が安全に暮らせるまちづくりに取り組みます。

>> 具体的施策 2

○ 時代の変化に対応した都市構造や交通ネットワークの構築をはじめ、ゼロカーボン・エコシティの実現や、居心地のよい環境づくりに取り組み、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

>> 具体的施策 3

数値目標

項目	基準値 (2022(令和4)年度末)	目標値 (2028(令和10)年度)
水戸市が住みやすいと感じる市民の割合	72.3%	75%
災害に強いまちづくりに満足している市民の割合	27.3%	45%



年間365日運営する休日夜間緊急診療所



水戸駅を中心に放射状に構築された公共交通ネットワーク

具体的施策 1

生き生きと健やかに暮らせる環境づくり



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
在宅医療を担う医療機関数 ※資料：関東信越厚生局HP「保険医療機関の指定等一覧」	29 箇所	32 箇所
健康寿命の延伸	男性 79.90 歳 女性 83.35 歳	平均寿命の増加 分を上回る健康 寿命の増加

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
生命と健康を守る 医療環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる充実した医療提供体制の維持・確保 様々なニーズに対応した支援体制づくり 緊急時にも適切な医療が受けられる環境づくり 	市 関係機関 関係団体 構成市町村
生涯にわたって 健やかに暮らせる 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの多様な健康づくりの推進 健康危機から市民を守る環境づくり こころの健康づくりの推進 生活衛生の確保 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
生涯にわたって 生き生きと暮らせる 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティ活動の活性化 心を豊かにする生きがいづくりの推進 市民のボランティア・NPO 活動の促進 こどもから大人まで楽しく学べる生涯学習環境づくり 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
地域で支えあい、 助けあう環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域とつながり、安心して暮らせる環境づくり 地域福祉推進体制の充実 地域包括ケアシステムの構築等による高齢者が安心して暮らせる環境づくり 障害者が地域で自分らしく生活することができる環境づくり 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
防災訓練等への参加者数 (年間)	8,084 人 ※14,039 人 (2018 (平成30) 年度)	15,000 人
交通事故の発生件数 (年間)	844 件 (2022 (令和4) 年)	700 件 (2028 (令和10) 年)

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
危機管理・ 防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる事態に対応できる危機管理体制づくり あらゆる手段を活用した防災情報の伝達 市民等との協働による地域防災の推進 各種施設等における災害に備えた整備の推進 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村
消防・救急の充実	<ul style="list-style-type: none"> 火災の未然防止と被害の軽減に向けた取組の推進 生命を守る救急活動の充実 市民の安全を守る消防・救急体制の充実 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
交通安全・防犯の充実	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全意識の普及・啓発 安全な交通環境づくり 安全なまちづくりに向けた防犯対策の強化 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
消費生活の向上	<ul style="list-style-type: none"> 消費者教育の推進 消費生活相談体制の充実 	市 関係機関 関係団体 事業者

具体的施策 3

居心地がよく快適に暮らせる環境づくり



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
シェアサイクル利用数 (年間)	—	50,000 回
都市核の人口集積率	6.4%	7.0%

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
公共交通ネットワーク 及び自転車利用環境の 充実	<ul style="list-style-type: none"> • 利用しやすい公共交通の充実 • 公共交通を補完する移動手段の充実 • 自転車の利用促進 	市 市民 事業者 構成市町村
快適に暮らせる住環境 づくり	<ul style="list-style-type: none"> • 良好な住環境の形成 • 一人一人にあった住まいづくりの支援 • 空き家・空き地の有効活用促進と対策強化 	市 関係団体 事業者
地球環境に優しい まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> • ゼロカーボンエコシティ実現に向けた地球 温暖化対策の推進 • 循環型社会の形成に向けた取組の推進 • 豊かな自然環境の保全 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村
誰もが理解しあい 暮らしやすい 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> • 全ての人の人権が尊重され、暮らしやすい 環境づくり • 誰もが平和への意識を持ち、多様な国籍や 文化を理解しあうことができる環境づくり • 人と動物が共生できる環境づくり • バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者
水戸らしい 居心地のよい まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> • 都市核・拠点の機能強化 • 魅力的な都市空間の形成 • 快適な緑地、公園、花と緑の空間づくり • 持続可能なコンパクトな都市構造の構築 • 効率的・効果的な道路整備の推進 • 水道水の安定供給と生活排水の適正処理 	市 市民 関係機関 関係団体 事業者

施策の柱Ⅳ シティプロモーション



基本目標

住みたい、ずっと住み続けたいと思われるMITOの実現

基本的方向

○ 時代に即したメディアを効果的に活用し、「まち・ひと・しごとの好循環」により高める水戸の魅力を、様々な視点から、分かりやすく魅力的に伝える情報発信に取り組むことで、若い世代の移住・定住を促進します。

>> 具体的施策1

数値目標

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
15歳から30歳の市民のうち、 今後も水戸市に住みたいと思う人の割合	29.3%	50%
18～39歳（生産年齢人口の概ね前半）の 社会動態（転入者数－転出者数）（年間）	129人 (2022 (令和4) 年)	250人 (2028 (令和10) 年)



市内ロケ地での商業撮影を支援する
フィルムコミッション



県内の企業が集まる
チャレンジいばらき就職フェア



水戸の暮らしを体感する
移住体験事業



移住検討者が多く集まる場への
移住相談ブースの出展



[重要業績評価指標 (KPI)]

項目	基準値 (2022 (令和4) 年度末)	目標値 (2028 (令和10) 年度末)
市公式 LINE 登録者数	57,053 人	100,000 件
移住相談件数 (年間)	71 件/年	130 件/年

[主な事業]

事業名	事業概要	事業主体
多様な手法による プロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> • 様々なメディアを活用したシビックプライドを高める行政情報の発信 • ターゲットにあわせて魅せ方を変える戦略的プロモーションの展開 • みとアンバサダーなど、個人の発信力を生かしたプロモーションの展開 • フィルムコミッションの充実によるプロモーションの展開 • 若い世代に届く、時代の変化を捉えた新たなプロモーションの展開 • 若い世代を呼び込めるイベントの展開 	市 市民 関係機関 事業者 構成市町村
移住を後押しする 施策の充実	<ul style="list-style-type: none"> • 二地域居住など、一人一人が望むライフスタイルに応じた情報発信 • 一人一人に寄り添う移住相談体制の充実 • 水戸の暮らしを体感する移住体験の推進 • 地域おこし協力隊制度の活用 • 移住に係る負担の軽減 	市 関係機関 事業者 構成市町村
若い世代の みとりターンの 促進強化	<ul style="list-style-type: none"> • 若い世代が水戸とつながり続けるプラットフォームの構築 • 市内外の若い世代に向けた魅力ある働く場のPR 	市 関係機関 関係団体 事業者 構成市町村

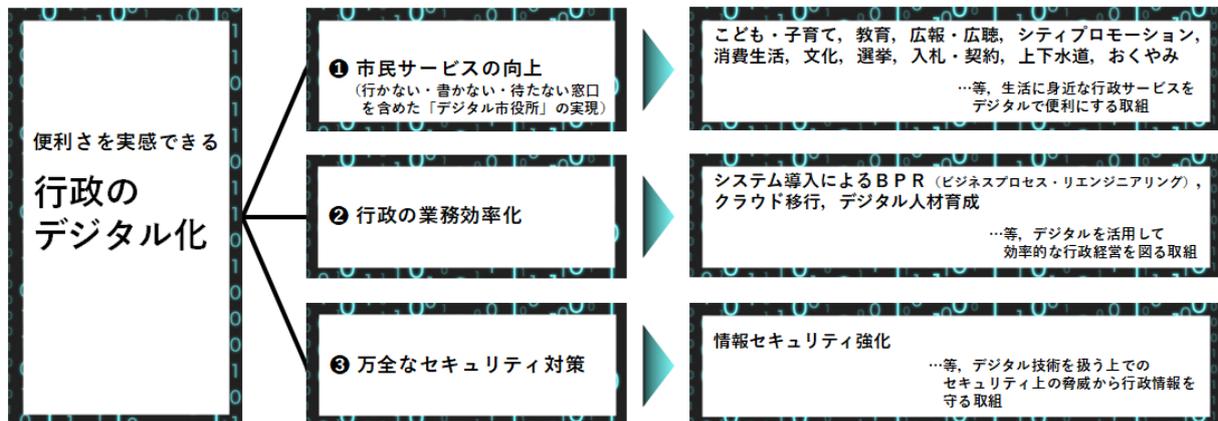
第5 各施策をより効果的に推進するためのデジタル化・DX

あらゆる分野の産業や市民の生活の質の向上に向け、以下の施策に積極的に取り組み、本戦略における各施策をより効果的に推進します。

1 便利さを実感できる「行政のデジタル化」

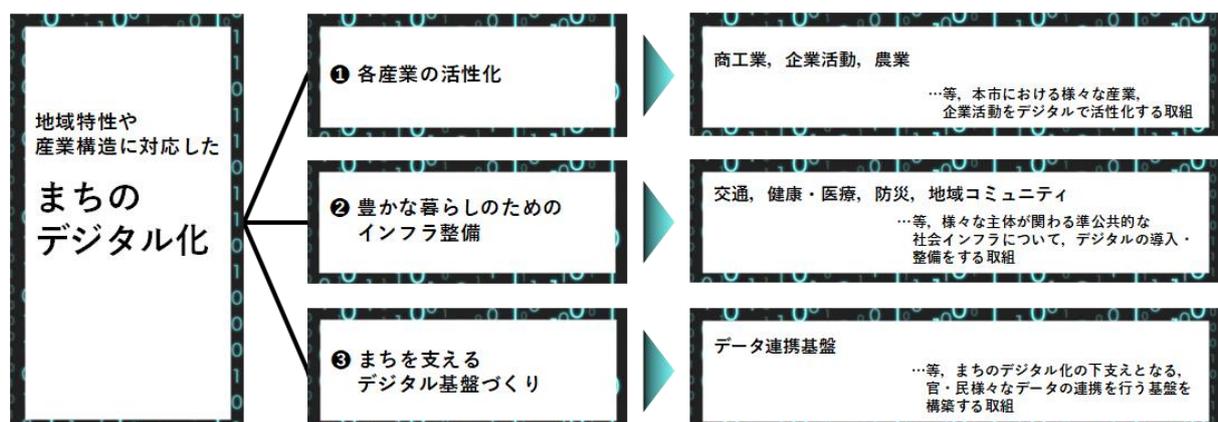
本市の窓口における手続きや各種支払いをはじめとした、「しごとの創生」「ひとの創生」「まちの創生」の各施策における市民サービスにおいて、新たなシステムの導入やキャッシュレス決済の拡充等のデジタル化を進めることにより、市民の利便性の向上に取り組みます。

また、「シティプロモーション」においても、デジタル媒体を活用し、時代に即したプロモーションに取り組むことで、より効果的な情報発信に取り組みます。



2 産業特性や産業構造に適応した「まちのデジタル化」

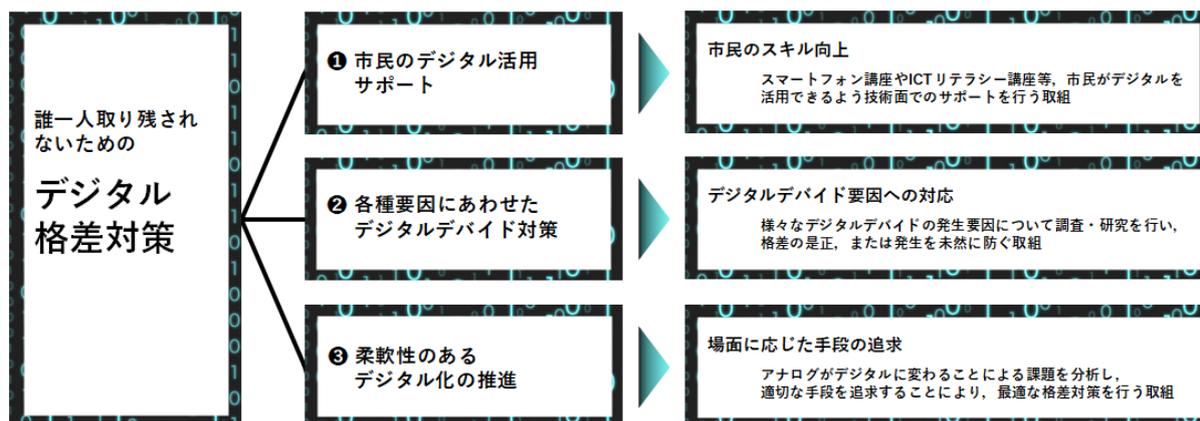
交通や医療など、市民生活の基盤となる、準公共的な社会インフラに効果的にデジタルを取り入れることにより、市民の暮らしを豊かにしていくとともに、市内の産業ごとの特性にあわせたデジタル技術の導入を積極的に支援することで、各産業における生産性向上や高度化に取り組む、「まち・ひと・しごとの好循環」の実現をしっかりと支えていきます。



3 誰一人取り残さないための「デジタル格差対策」

年齢や経済状況，障害の有無等にかかわらず，全ての市民がデジタルの利便性の恩恵を受けて生活がすることができる，デジタル格差のないまちを目指し，市民のデジタルスキルの向上を図るとともに，格差の要因についての調査・研究を進め，その是正や未然防止に取り組みます。

また，デジタルとアナログそれぞれの強みと弱みを研究し，デジタル化を推進する中でも，デジタル一辺倒にならず，より最適な手段を追求することで，より確実な格差対策を図ります。



第6 推進体制と進行管理



1 推進体制

本戦略の推進に当たっては、水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議等の意見を反映させるほか、社会環境の変化や多様化する市民ニーズに対応していくため、各施策において、多様なステークホルダーと連携することで、より一層「まち・ひと・しごとの好循環」の推進を図り、若い世代に選ばれる魅力あるまちの実現に取り組む体制を構築します。

産・学・官連携

本戦略における重点である「しごとの創生」をはじめ、まちづくりや教育など、幅広い分野における連携協力体制の構築や個別事業での連携に積極的に取り組むなど、市と事業者、大学等それぞれが有する人的・物的資源を活用することにより、各施策をより一層推進します。

広域連携

本市を中心とするいばらき県央地域連携中枢都市圏による取組をはじめ、各施策において、広域連携事業を積極的に推進することで、地域の枠を越え、広い視野に立った効果的な施策を展開していきます。

市民協働

市民と行政がそれぞれの長所や特性を生かし、あらゆる分野における協働のまちづくりに積極的に取り組むことで、各施策において、より市民ニーズを反映した事業の推進を図ります。

【推進体制のイメージ】



2 進行管理

本戦略は、社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、毎年度PDCAサイクルによる検証を行い、必要に応じて戦略の見直しを行うものとします。

【総合戦略の進行管理システム（PDCAサイクル）】



— 付属資料 —

1 SDGs (持続可能な開発目標)

SDGs (持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015 (平成 27) 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられました。2030 (令和 12) 年を達成年限とし、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。

SDGs (持続可能な開発目標) の詳細



目標 1 [貧困]

あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



目標 3 [保健]

あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標 5 [ジェンダー]

ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女兒のエンパワーメントを行う



目標 7 [エネルギー]

全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



目標 9 [インフラ, 産業化, イノベーション]

強靱(レジリエント)なインフラ構築, 包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



目標 11 [持続可能な都市]

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標 13 [気候変動]

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



目標 15 [陸上資源]

陸域生態系の保護, 回復, 持続可能な利用の推進, 持続可能な森林の経営, 砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標 17 [実施手段]

持続可能な開発のための実施手段を強化し, グローバル・パートナーシップを活性化する



目標 2 [飢餓]

飢餓を終わらせ, 食料安全保障及び栄養の改善を実現し, 持続可能な農業を促進する



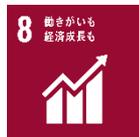
目標 4 [教育]

全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し, 生涯学習の機会を促進する



目標 6 [水・衛生]

全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



目標 8 [経済成長と雇用]

包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



目標 10 [不平等]

国内及び各国家間の不平等を是正する



目標 12 [持続可能な消費と生産]

持続可能な消費生産形態を確保する



目標 14 [海洋資源]

持続可能な開発のために, 海洋・海洋資源を保全し, 持続可能な形で利用する



目標 16 [平和]

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し, 全ての人々に司法へのアクセスを提供し, あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2 市総合計画及び国関連法令・計画等から見る本戦略の位置付けと役割

市総合計画から見る戦略の位置付け

本市における全ての計画は、最上位計画である総合計画に則った計画として策定されます。

本戦略についても、「水戸市第7次総合計画（計画期間：2024（令和6）年度～2033（令和15）年度）」に掲げる将来都市像「こども育む 暮らし楽しむ みらいに躍動する 魁のまち・水戸」の実現を目指し、総合計画の策定にあわせ、分野別の個別計画として策定するものです。…【A】

国関連法令・計画から見る本戦略の役割

本戦略は、以下の国関連法令・計画を踏まえ、「若い世代の人口流入の促進、人口流出の抑制を図る（＝若い世代の移住・定住の促進を図る）ことで、本市の人口構造をバランスのとれたものとし、将来にわたってまちの活力を高めていく」ことを役割としています。

【国の関連法令・計画】

①【根拠法】 まち・ひと・しごと創生法（2014（平成26）年法律第136号）…【B】

「まち・ひと・しごと創生」に係る、基本理念、国等の責務、政府が講ずべき施策を総合的かつ計画的に実施するための計画（＝「まち・ひと・しごと総合戦略」）の作成等について定めている法律です。

この法律において、市町村は、国が策定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び都道府県が策定する「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案して、当該市町村の実情に応じた「まち・ひと・しごと創生」に関する施策についての基本的な計画（＝「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」）を定めるよう努めることとされています。…【C】

○「まち・ひと・しごと創生」とは

我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進すること。（参考：「まち・ひと・しごと創生法」第一条）

②【上位計画】 デジタル田園都市国家構想総合戦略（2022（令和4）年12月23日閣議決定）…【D】

国が「まち・ひと・しごと創生法」に規定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として策定した第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）を、テレワークや地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、地域の個性を生かしながらデジタルの力によってこれまでの取組を加速化・深化させていくため、同法の規定に基づき変更したものです。

この戦略では、これまで地方が「まち・ひと・しごと創生」として行ってきた様々な地域の社会課題解決・魅力向上に向けた取組を、今後は、デジタルの力を活用して継承・発展させていくことが肝要としています。それにより、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」の実現（＝「デジタル田園都市国家構想」の実現）が図られ、都会に住む者が、ゆとりある生活や豊かな自然・環境のもと、地方の暮らしを体験できるようになるなどのメリットを実感することができ、地方への人の流れが創出されるなど、地域における社会課題の解決を目指すものとしています。

また、この戦略内では、そうした考え方のもと、デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示しています。

本戦略におけるデジタル化・DXの整理

本戦略において、各施策を推進する力となるデジタル化・DXについては、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」も踏まえながら、以下の考え方に基づき整理しています。

(1) 本戦略におけるデジタル化・DXの位置付け

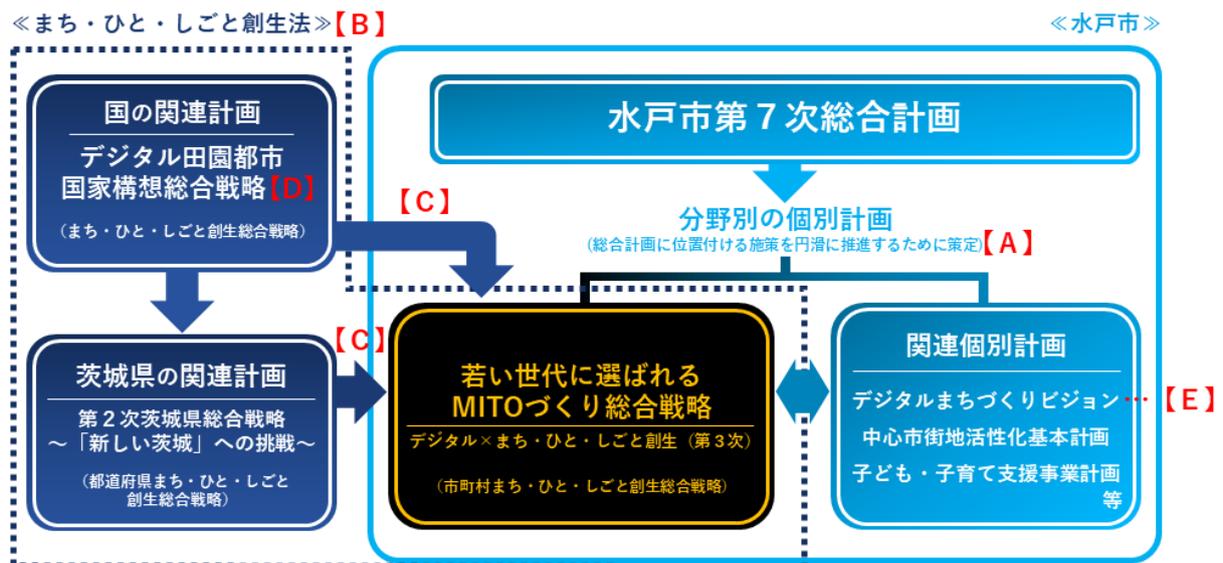
デジタル技術は、地域社会の生産性や利便性を飛躍的に向上させ、地域の魅力を高める力を持っていることから、あらゆる分野で積極的に活用することとし、本戦略の「基軸とする三つの視点」の一つにデジタル化・DXを位置付けています。

デジタル化・DXは、各施策を効果的に推進していくための手段の一つであることから、本戦略の目的達成のため、幅広い施策のより効果的な推進を支えるものとして位置付けています。

(2) 本市におけるデジタル化・DXを進める具体的な取組の整理…【E】

本市のデジタル化・DXを進める具体的な取組については、「水戸市デジタルまちづくりビジョン」において位置付けています。

【関連図】



3 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料

(1) 地方移住者（U・Iターン者）の意識調査

調査実施主体：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

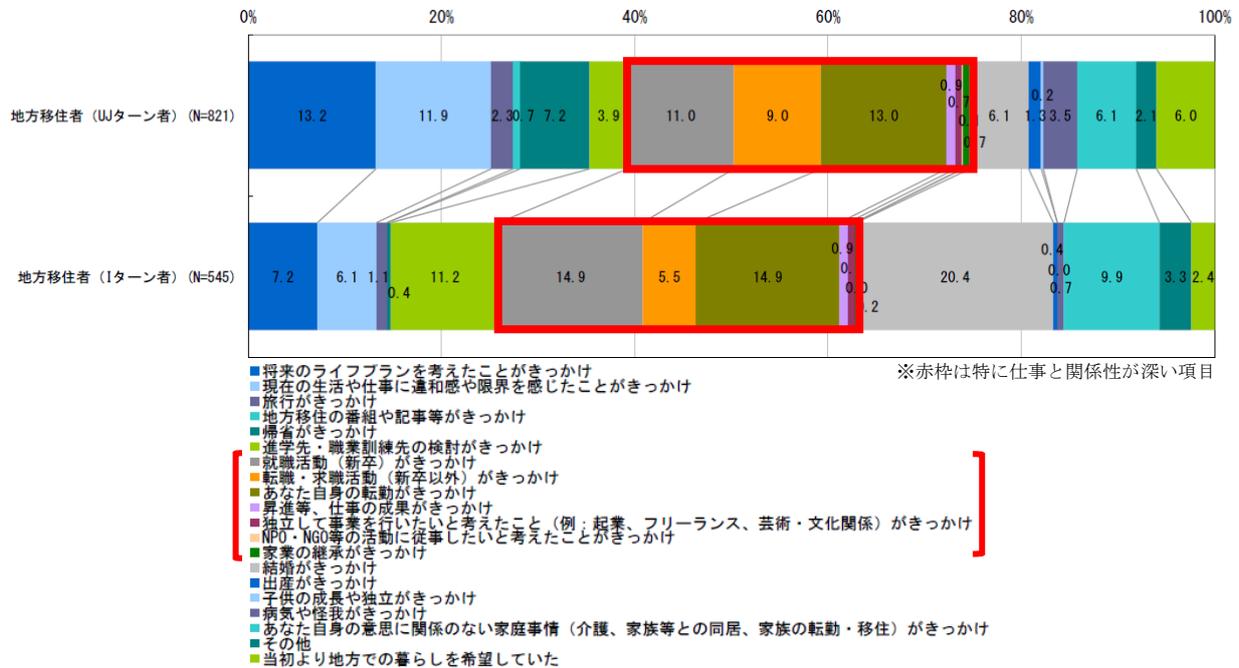
調査実施時期：2020（令和2）年度

調査対象者：下記全てに該当する方

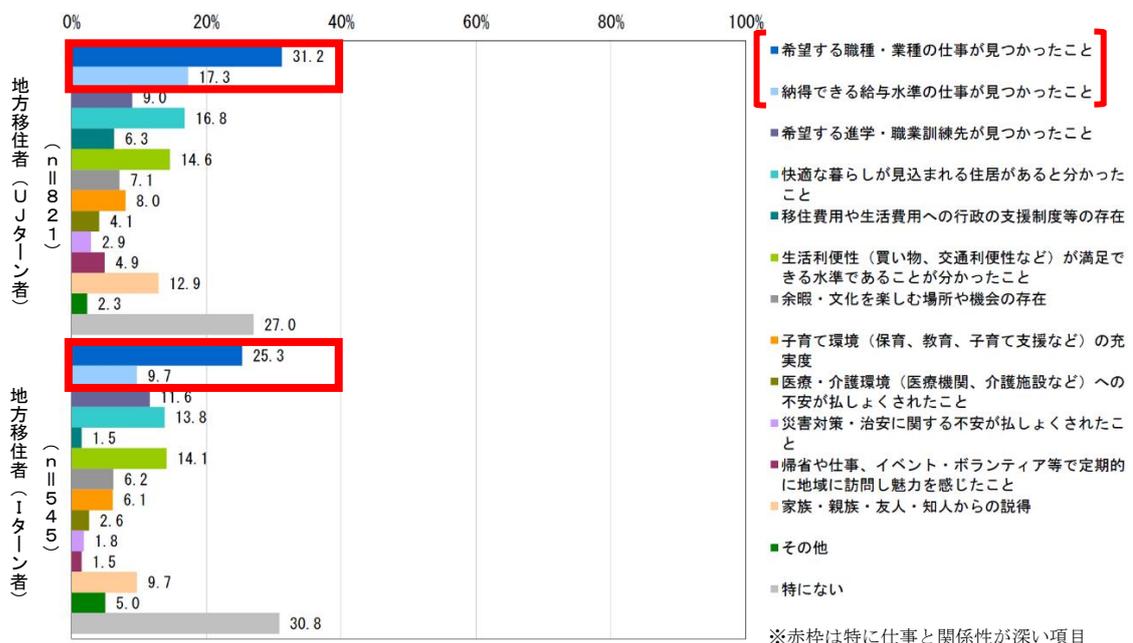
- ・現在の居住地が地方（東京都，千葉県，埼玉県，神奈川県以外）
- ・東京圏から地方に移住した経験がある（U・JターンまたはIターン）
- ・年齢が20～39歳
- ・地方へ転出した年齢が18歳以降（複数回転出の場合は最後の転入が18歳以降）
- ・地方への転出の時期が直近10年以内（複数回転出の場合は最後の転入が直近10年以内）

回収標本数：1,366件

Q17 あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください



Q23 あなたが地方に住むという決断をした際に、影響を与えた要素を全てお答えください



(2)－あなたと描く水戸の未来－市民1万人アンケート

調査実施主体：水戸市

調査実施時期：2022（令和4）年度

調査対象者：水戸市在住の満15歳以上の個人のうち10,002人

※住民基本台帳から5歳ごとの年齢階層別に層化無作為抽出

※80歳以上については、人口割合から、80歳以上で1つの階層としている

有効回収数：4,991件

1－1 水戸市の印象

・評価が下位の項目（27項目中）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=4,978)		都会的な雰囲気がある (-78.3)	商業が盛んで活力を感じる (-57.4)	魅力ある企業が多い (-53.2)	交通機関が発達している (-39.9)	祭りや防災訓練など地域の行事が盛んである (-27.3)
20歳代 (n=400)		都会的な雰囲気がある (-63.9)	商業が盛んで活力を感じる (-38.3)	魅力ある企業が多い (-35.5)	交通機関が発達している (-23.3)	遊ぶところが多く生活を楽しめる (-17.5)
30歳代 (n=590)		都会的な雰囲気がある (-87.6)	商業が盛んで活力を感じる (-51.4)	交通機関が発達している (-47.5)	魅力ある企業が多い (-45.0)	遊ぶところが多く生活を楽しめる (-32.9)
40歳代 (n=643)		都会的な雰囲気がある (-87.0)	商業が盛んで活力を感じる (-60.3)	交通機関が発達している (-50.9)	魅力ある企業が多い (-48.8)	遊ぶところが多く生活を楽しめる (-24.0)

※各項目下部の数値は、回答の選択肢である「そう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」のそれぞれに2～2点の点数を振り、数値化した評価点

※塗りつぶした枠は特に仕事と関係性が深い項目

2－3－1 施策の現状に対する満足度

・評価が下位の項目（38項目中）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=4,978)		商業の振興(新たな店舗の開業など) (-20.5)	身近な生活道路の整備(拡幅や舗装、照明の設置、歩道の整備など) (-20.3)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-18.4)	工業の振興(新たな企業の進出など) (-17.3)	観光の振興(観光の増加など) (-16.4)
20歳代 (n=400)		観光の振興(観光客の増加など) (-13.3)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-5.3)	商業の振興(新たな店舗の開業など) (-4.0)	工業の振興(新たな企業の進出など) (-2.3)	行政への住民意向の反映 (-2.0)
30歳代 (n=590)		商業の振興(新たな店舗の開業など) (-27.2)	身近な生活道路の整備(拡幅や舗装、照明の設置、歩道の整備など) (-27.2)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-26.7)	交通安全の充実 (-25.5)	行政への住民意向の反映 (-23.0)
40歳代 (n=643)		商業の振興(新たな店舗の開業など) (-30.6)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-28.3)	観光の振興(観光の増加など) (-28.2)	身近な生活道路の整備(拡幅や舗装、照明の設置、歩道の整備など) (-27.8)	工業の振興(新たな企業の進出など) (-26.0)

※各項目下部の数値は、回答の選択肢である「満足している」「どちらかといえば満足である」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」のそれぞれに2～2点の点数を振り、数値化した評価点

※塗りつぶした枠は特に仕事と関係性が深い項目

上記の調査から得られる情報として、若い世代が地方に住むきっかけや決断には、仕事の影響が大きい((1)参照)一方で、若い世代の本市への印象では、仕事に関する印象は薄いほか、本市の仕事に関する施策への若い世代の満足度も低い((2)参照)ことが分かります。

(3) 若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会

期 日：2022（令和4）年11月7日

場 所：水戸市役所本庁舎4階 中会議室1～3

出席者：水戸市…市長，副市長，関係部長，関係課職員

茨城大学…人文社会科学部 後藤玲子教授及びそのゼミ生13名

常磐大学…人間科学部 水嶋陽子教授及びそのゼミ生15名

概 要：これからの人口減少社会で、水戸市が、持続可能な地域社会として安心して住みやすいまちであり続けるためには、SDGsの取組や誰もが個性と能力を發揮できるまちとなることが重要であるとの認識のもと、これからの時代を担う大学生が、水戸市に対し、データやエビデンス（根拠）に基づく政策提言を実施しました。

提案内容：SDGs×地域×ジェンダー ～水戸市の未来を考える～

茨城大学 人文社会科学部 法律経済学科 経済政策論ゼミナール（Aグループ）の提言

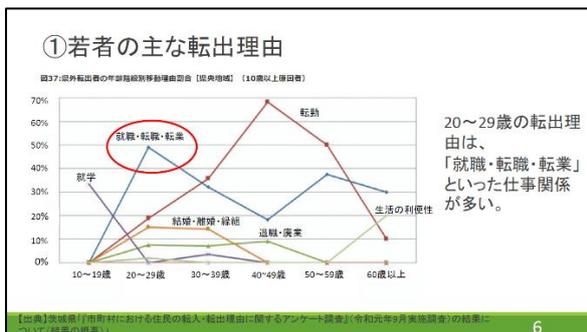
テ ー マ：水戸市の若者の転出者を減らすために何が効果的か

提言概要： 提言グループでは、水戸市の社会問題として、若者が離れている現状があることを挙げ、水戸市に魅力を感じない若者が転出をしている可能性について調査しました。

その中で、茨城県が実施した調査の結果では、若者の主な転出理由としては「就職・転職・転業」といった仕事関係が多くなっていることに着目し、「なぜ、若者は水戸市ではなく都会に就職するのか」というリサーチ・クエスチョンに対し、四つの仮説を立て、各種調査から検証を行いました。

また、茨城大学の学生351人にも調査を行い、茨城県外に転出したい人の3人に1人が娯楽について指摘しているとともに、現在の水戸市の娯楽について6割以上の人が不満を感じていることから、本グループではまとめとして、レジャー、アウトドアスポーツを中心としたアミューズメント施設の誘致等を提言しました。

(提言資料一部抜粋)



4. 仮説検証のまとめ

【リサーチ・クエスチョン】なぜ、若者は水戸市ではなく都会に就職するのか

仮説	検証結果
仮説① 都会の方が選択できる職の幅が広い	妥当
仮説② 都会の方が賃金水準が高い	妥当
仮説③ 都会の方が行政支援が充実している	妥当でない
仮説④ 都会の方が娯楽が充実している	不明(データが少ない)

娯楽と転出の関係について調査する。

2. アンケート調査と考察

- 調査テーマ：水戸市の娯楽について
- 調査目的：若者(大学生)が水戸市に求める娯楽とは何かを知る。
- 調査方法：Microsoft Formsを用いたオンラインアンケート
- 調査対象：茨城大学の学生(有効回答数:351人)
- 調査時期：令和4年10月中旬
- 調査内容：現在の水戸市の娯楽の満足度
今後水戸市に最も力を入れてほしい娯楽

3. 政策提案

- 「遊ぶ場所」「おしゃれ・ファッション」の2点に絞った政策提案
- 転出率との関係が最も強いのは「お買い物」だが、アンケートでは不満の声が少なかった。
- 力を入れてほしい娯楽で最も集まった「ショッピングモール」の実現可能性も低い。
- 提案① 遊ぶ場所の誘致
- アンケートで特に求められていた「レジャー・アウトドア」や「スポーツ」を核にした提案。
- 遊ぶ場所不満を持つ女性が多いため、女性を意識した提案。
- 提案② おしゃれ・ファッション
- 施設数が極端に多いが、アンケートでは施設が少ないと回答した若者が多かった。
- 可能性1:若者向けの施設が少ない(ゼミでのまちあるき調査より)。
- 可能性2:若者向けの施設が多かったとしても、宣伝が不足しており、若者に認知されていない。

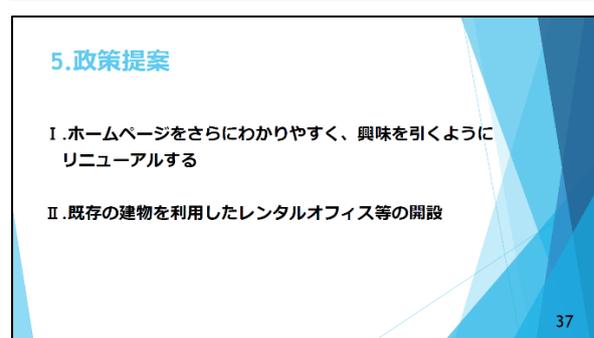
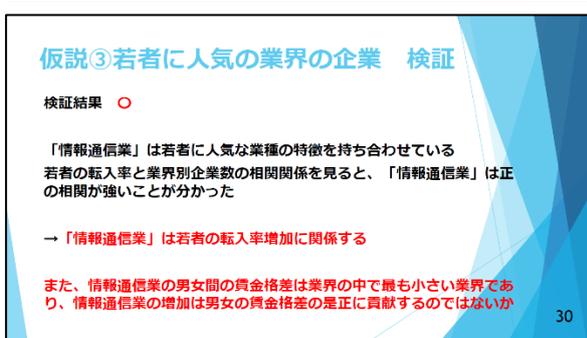
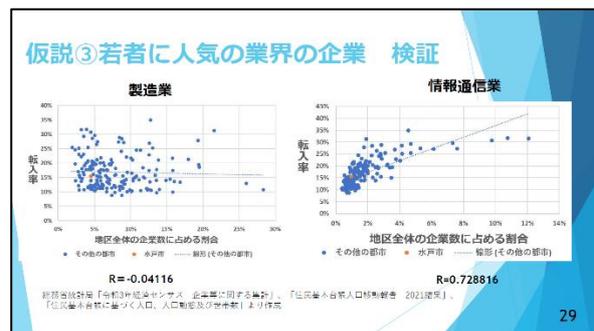
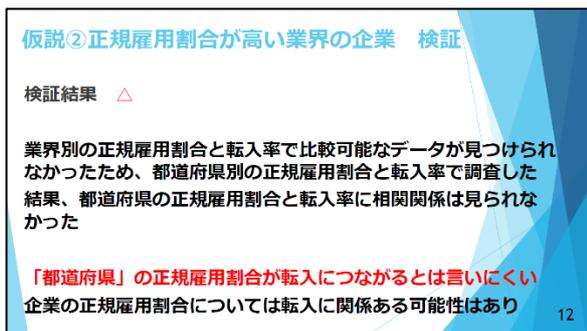
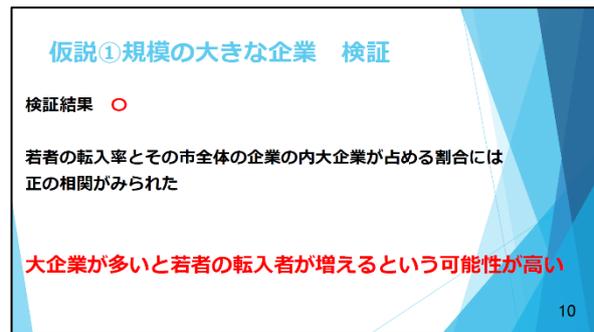
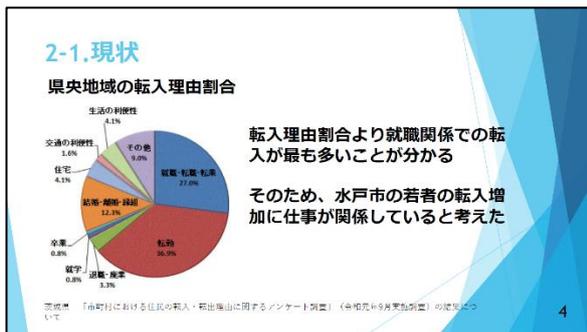
テーマ：水戸市の若者転入者増加に何が有効か

提言概要： 提言グループでは、水戸市の人口が今後減少傾向に向かうことが予想されていることから、その解決策として、若者の人口を増加させることが必要であるとし、若者の転入要因から、水戸市の若者の転入者を増加させる施策について調査しました。

その中で、茨城県が実施した調査の結果では、**県央地域の転入理由としては仕事関係での転入が多くなっている**ことに着目し、「水戸市への若者の転入者増加にはどのような特徴を持つ業界の企業増加が有効か」というリサーチ・クエスチョンに対し、三つの仮説を立て、各種調査から検証を行いました。

まとめとして、**規模が大きい企業が多い地域や若者に人気である情報通信業の企業が多い地域は若者の転入率が高い**とし、**企業誘致に係るホームページを分かりやすく、興味を引くようにリニューアルする**という提言や、**企業支援の場として、行政による低コストのレンタルオフィス**を既存の建物を利用して開設するという提言を行いました。

(提言資料一部抜粋)



4 総合戦略策定に係る経過と推進体制

若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略策定に係る経過の概要

年 月 日	内 容
2022（令和4）年 5月12日 ～31日	<p>市民意向調査（－あなたと描く水戸の未来－市民1万人アンケート）【7水総】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水戸市在住の満15歳以上の個人10,002人に郵送 ・有効回答数 4,978（回答率49.8%）
9月29日 ～10月28日	<p>高校生、大学生の考えるまちづくり提案調査（常磐大学高等学校，茨城大学，常磐大学）【7水総】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化をテーマとしたインターネットアンケートを実施 ・提案件数55件
11月7日	<p>若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会（茨城大学，常磐大学）開催【7水総】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SDGs×地域×ジェンダー～水戸市の未来を考える～」をテーマとして，四つのグループがデータやエビデンスに基づく提言を実施
11月22日	<p>大学生によるまちづくりプレゼン発表会（茨城大学）開催【7水総】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中心市街地活性化」，「水戸ならではの観光振興」，「子育て支援の充実」，「福祉の充実」，「地球温暖化対策，循環型社会に向けた取組の促進」をテーマとして，五つのグループがこれからの水戸のまちづくりについて，大学生の視点から提案を実施
12月3，4日	<p>未来を描く・みと・市民討議会開催（水戸青年会議所共催）【7水総】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水戸市在住の満16～39歳，約2,000人に郵送し，参加希望の24人 ・「子育て支援の取組～子育てしやすいまちにするには～」，「魅力的な働く場の創出～若い世代に住み続けてもらうためには～」の二つのテーマについて，よりよいまちづくりに資する提案を実施
2023（令和5）年 2月1日	<p>水戸探求 最終プレゼンテーション（常磐大学高等学校）【7水総】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高校生の目に留まる情報発信とは」，「高校生が利用したい新市民会館とは」，「高校生が取り組んでみたい環境保全活動とは」，「高校生が行ってみたい中心市街地とは」，「高校生が参加してみたい観光イベントとは」，「高校生が行ってみたい水戸城周辺とは」をテーマとして，六つのグループが水戸市が抱える課題の解決のための政策提言を実施
6月29日	<p>令和5年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部 専門部会開催（しごとの創生・ひとの創生・まちの創生専門部会合同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「（仮称）水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3次）（水戸市デジタル田園都市国家構想総合戦略）」策定基本方針（案）について

年 月 日	内 容
7月5日	令和5年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会議開催 ・「(仮称)水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第3次)(水戸市デジタル田園都市構想総合戦略)」策定基本方針(案)について
8月21日	令和5年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議開催 ・「(仮称)水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第3次)(水戸市デジタル田園都市構想総合戦略)」策定基本方針について
10月26日	令和5年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会議開催 ・「(仮称)水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第3次)(水戸市デジタル田園都市構想総合戦略)」骨子(案)について
11月9日	令和5年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議開催 ・「(仮称)水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第3次)(水戸市デジタル田園都市構想総合戦略)」骨子(案)について
2024(令和6)年 1月19日	令和5年度第3回水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会議開催 ・「若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略ーデジタル×まち・ひと・しごと創生(第3次)」素案について
○月○日	令和5年度第3回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議開催 ・「若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略ーデジタル×まち・ひと・しごと創生(第3次)」素案について
○月○日	令和5年度第4回水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会議開催 ・「若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略ーデジタル×まち・ひと・しごと創生(第3次)」素案について
○月○日 ～○月○日	「若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略ーデジタル×まち・ひと・しごと創生(第3次)」素案に係る意見公募手続 ・意見○人○件
○月○日	令和6年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議開催 ・「若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略ーデジタル×まち・ひと・しごと創生(第3次)」(案)について
○月○日	令和6年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会議開催 ・「若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略ーデジタル×まち・ひと・しごと創生(第3次)」(案)策定

※ 「【7水総】」と表示のある項目は、水戸市第7次総合計画策定過程において実施し、本戦略の策定に当たり踏まえたもの。

水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

(五十音順, 敬称略)

氏名	役職名	備考
飯島 清光	水戸農業協同組合 代表理事組合長	
石川 健一	東日本旅客鉄道水戸支社 経営戦略ユニット ユニットリーダー	
打越 美和子	水戸市議会議員	
海老原 健	常陽産業研究所 地域研究部長兼地域研究センター長	
大久保 惣太	水戸青年会議所 副理事長	
大久保 博之	学校法人リリー文化学園 理事長	
鬼澤 真寿	水戸市議会議員	
小林 謙	水戸公共職業安定所 所長	
佐川 泰弘	茨城大学 副学長	座長
笹尾 光	茨城キリスト教学園 理事長	
島田 弘子	水戸商工会議所女性会 会長	
鈴木 吉昭	水戸観光コンベンション協会 専務理事	
関 厚	連合茨城中央地域協議会 議長	
田山 知賀子	M・I・T・O21 理事	
任田 正史	茨城交通 代表取締役社長	
中島 陽	常陽銀行水戸市役所支店 支店長	
沼田 安広	茨城新聞社 代表取締役社長	
萩谷 慎一	水戸市議会議員	
二川 泰久	水戸商工会議所 副会頭	
細田 弥太郎	水戸市医師会 会長	
細谷 智宏	水戸市議会議員	
保立 武憲	水戸市社会福祉協議会 会長	
堀井 武重	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 会長	
三上 靖彦	水戸市中心市街地活性化協議会 副会長	
村中 均	常磐大学 教授	
森 一恵	子育て応援ペンギンクラブ 理事	
渡辺 潤	水戸商工会議所青年部 会長	

※役職名は委員委嘱時のもの

若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略
ーデジタル×まち・ひと・しごと創生（第3次）ー
令和6（2024）年6月策定

発行 水戸市
編集 水戸市 市長公室 政策企画課
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
TEL 029-224-1111（代表）

水戸市まち・ひと・しごと創生
有識者会議参考資料①
令和6年2月14日
市長公室政策企画課

水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）の総合評価
（中間報告）

水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会議

1 評価対象期間

2020（令和2）年度～2023（令和5）年度

※本戦略の計画期間は2020（令和2）年度から2024（令和6）年度であるが、新しい時代に対応し、地方創生を更に加速させるため、本戦略の計画期間の終了を待たずに、2024年度を初年度とする新たな総合戦略（第3次）の策定を進めていることから、総合評価も1年前倒しで実施することとする。

2 「水戸のまち創生」重点プログラムについて

「水戸のまち創生」重点プログラムについては、本戦略で掲げる目指す姿「若い世代が活躍する 持続的に成長するまち 水戸 一働きたくなる 住みたくなる 子育てをしたくなる 人が育つ」の実現に向けて、若い世代が水戸で学び、働き、安心して暮らし続けられる環境の創出に取り組んできたところである。

達成目標として設定した「20歳～39歳の社会動態」については、2020年度に「246人の増」と目標値の「250人の増」に近い数値となり、2021年度には「415人の増」と目標値を大きく上回った。その後、2022年度までは、転入超過を維持してきたものの、2023年度は転出超過となることが予想される。

そのため、若い世代の更なる移住・定住の促進に向けて、これまでの取組を継続しつつ、時代の変化を捉え、優先的かつ重点的に取り組む施策を位置付け、一層効果的な取組を進めていく必要があるものと評価する。

3 各基本目標の総合評価

基本目標Ⅰ 生き生きと働ける仕事を創る

(1) 取組の概要

具体的施策1 地域経済をけん引する産業競争力の強化

本戦略の計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やエネルギー価格の高騰等により、地域経済を取り巻く環境は非常に厳しいものであった。そのため、事業継続緊急支援金やエネルギー価格高騰対策事業者緊急支援金の支給など、緊急的な事業者支援にスピード感を持って取り組んだ。

また、新製品・新技術開発や販路拡大に関する支援をはじめとした、きめ細かな事業者支援に取り組むとともに、物産展の開催等による観光特産品の魅力向上や地酒、水府提灯等の伝統産業の振興等による観光産業の強化を図った。

さらには、持続可能な農業の確立に向けて、農業の生産性を高める農地集積や農産物のブランド化を推進したほか、農福連携によるわら苎の安定的かつ持続的な供給体制の構築にも取り組んだ。

具体的施策2 多様な雇用の場の創出、地域雇用の促進

企業誘致の推進に向けて、事業者の補助制度等の活用促進を図るとともに、産業用地の確保に取り組んだ。

また、創業支援事業者と連携しながらセミナーや相談会を開催するなど、創業・スター

トアップ支援に取り組んだほか、大学生等を対象とした企業説明会の開催や市内企業を紹介するWEBサイトの開設・運営などにより、UJI ターンや地域雇用の促進を図った。

(2) KPI 及び数値目標について

KPI については、「市内製造品出荷額」が 2020 年度に減少しているものの、2021 年度には目標達成が見込める水準に持ち直したほか、その他の項目も概ね順調に推移している。

数値目標のうち、「生産年齢人口の就業率」については、横ばいであり目標の達成には至らなかった。「市民所得」については、2019 年度まで順調に伸びていたものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、2020 年度は大幅に減少した。

(3) 評価

基本目標 I については、企業誘致や創業支援等において一定の効果はあったものの、新型コロナウイルス感染症やエネルギー価格の高騰等の影響により、全体として大きく発展させることができなかったものと考えられる。

そのため、創業・スタートアップの促進や企業誘致、中小企業の成長支援による雇用機会の拡充をはじめ、あらゆる分野の産業強化に向けた支援に一層力を入れて取り組むことにより、地域経済の更なる活性化を図る必要があるものと評価する。

基本目標Ⅱ 新たな人の流れを生み出す

(1) 取組の概要

具体的施策 1 戦略的観光の振興による交流の拡大

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受けながらも、開催手法を工夫して各種イベントを開催するとともに、各種 SNS や YouTube 等の多様なツールを活用しながら、戦略的な観光情報の発信に取り組んだ。

また、コンベンション誘致活動の推進については、会議運営専門会社をターゲットとした営業活動やオンライン開催等の新たなスタイルに対応する助成の導入など、時代のニーズを捉えた誘致活動を推進したほか、水戸市民会館の開館やアダストリアみとアリーナの機能強化など、市内コンベンション施設の充実も図った。

それらの取組とあわせて、まちなかの回遊性を高めるため、シェアサイクルの導入等にも取り組み、市内におけるにぎわいや新たな交流の創出に取り組んだ。

具体的施策 2 芸術文化・スポーツ文化の交流によるにぎわいの創出

水戸芸術館における質の高い公演の開催や多彩な芸術文化に親しむことができる芸術祭の開催等を通して、芸術文化の魅力を高めるとともに、新たに開館した水戸市民会館、水戸芸術館及び京成百貨店の 3 施設で構成される Mitori0 (ミトリオ) 地区において、地域団体や商工団体等と連携してにぎわいの創出に取り組んだ。

また、プロスポーツチームと連携した共同イベントの開催や水戸黄門漫遊マラソンの開催等を通して、スポーツ文化の魅力向上を図った。

具体的施策3 自然、歴史資源を生かした魅力ある交流拠点の形成

千波湖の水質浄化や桜まつりにあわせたライトアップなど、偕楽園・千波湖周辺の魅力づくりに取り組んだ。

また、歴史資源が集積する弘道館・水戸城跡周辺地区においては、2019年度に完成した水戸城大手門に加え、二の丸角櫓の復元及び土塀の整備を実施するとともに、各種イベントを開催するなど、歴史資源を生かした魅力づくりに取り組んだ。

(2) KPI 及び数値目標について

本戦略の計画期間と重なるように新型コロナウイルス感染症の影響が広がり、緊急事態宣言等による行動制限が繰り返されたことから、KPI については、「大規模スポーツ大会の開催・誘致数」を除き、目標値を大きく下回っている。

数値目標についても、2022年時点では目標値に届いておらず、特に「観光交流人口」については、大幅に目標値を下回っている状況である。

(3) 評価

基本目標Ⅱについては、KPI、数値目標の各項目ともに、2020年度に大きく減少した後、実績値は年々上昇しており、2023年度は水戸黄門まつりや水戸黄門漫遊マラソンをはじめとする各種イベントをコロナ禍以前と変わらない規模で開催できた。さらには、水戸市民会館において、2023年7月の開館からわずか半年で年間目標である60万人を超える来館者を記録するなど、人の流れについては、コロナ禍からの回復の兆しが見えていられると考えられる。

そのため、にぎわいの創出による更なる地域経済の活性化に向けて、引き続き、歴史や自然、芸術文化、スポーツなど、水戸ならではの多彩な地域資源を生かしながら、こどもから大人まで、誰もが楽しめる交流拠点づくりを進めるとともに、それらの交流拠点を活用した魅力あるイベントや大規模コンベンションの積極的な誘致・開催を推進し、国内外に向けて水戸の魅力を広く発信していく必要があると評価する。

基本目標Ⅲ 結婚・出産・子育てを応援する

(1) 取組の概要

具体的施策1 安心して子どもを生み育てることのできる環境の充実

子育て世帯の経済的負担の軽減と相談支援の充実を柱とする「みとっこ未来パッケージ」をとりまとめ、小・中学校新入生応援金の支給や市立中学校の給食費無償化等を実現するとともに、伴走型相談支援やこども・子育て関連手続のDXにも取り組むなど、子育て世帯に寄り添った支援の充実を図った。

また、保育士の確保や放課後学級及び放課後子ども教室における学習支援等の充実を図り、安心してこどもを預けられる環境づくりを進めたほか、コロナ禍で不安を抱える子育て世帯の不安軽減のため、子育て支援・多世代交流センターを中心として、親子同士の交流の場づくりや育児相談を実施するなど、地域における子育て支援の充実に取り組んだ。

具体的施策2 未来を切り拓く力を育む水戸スタイルの教育の推進

児童・生徒1人1台のタブレット端末を整備し、AIドリルを活用するなど、時代に即した教育環境の整備を進めたほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業時においても、児童生徒の学びを保障するため、全校でオンライン授業を実施した。

また、日本遺産をはじめとする水戸の歴史や文化についての学びを取り入れた、郷土愛を育む教育の推進や学校図書館における読書環境の充実、学校給食における食育の推進など、豊かな人間性を育む教育を展開し、水戸の未来をリードする人材の育成に取り組んだ。

具体的施策3 移住・定住の推進

新たに本市独自の移住サイト「水戸暮らし」を開設するとともに、東京で開催された移住セミナーに参加し、本市の魅力をPRするなど、移住検討者への情報発信の強化に取り組んだ。

また、移住相談の充実や移住支援金の積極的な活用を図ったほか、県央地域の市町村と連携し、移住体験ツアーの実施や移住フェアへの出展等に取り組み、本市及び県央地域への移住促進を図った。

(2) KPI 及び数値目標について

KPIのうち、「子育て支援・多世代交流事業の利用者数」については、新型コロナウイルス感染症対策として、予約制による少人数での運用としたことなどが大きく影響し、目標値を大幅に下回っているほか、「学力診断のためのテストの各教科における平均点」についても伸び悩んでいる状況である。しかしながら、「開放学級待機児童数」は引き続きゼロを維持しているほか、その他の項目についても着実に実績を積み重ね、概ね順調に推移している。

数値目標については、「合計特殊出生率」が低下傾向にあるほか、「子育て世帯の社会動態」についても、基準値に比べ持ち直しているものの、依然として転出超過の状況が続いている。

(3) 評価

基本目標Ⅲについては、各施策に位置付けた事業の着実な推進が図られているものの、数値目標として設定した「合計特殊出生率」及び「子育て世帯の社会動態」が、ともに目標値を下回っていることから、若い世代のニーズを捉えながら、より一層子どもを生き育てやすい環境づくりを進めていく必要があると考えられる。

そのため、安心して子どもを生き育てることができるまちの実現に向けて、「みとっこ未来パッケージ」をより一層推進し、子育て世帯への支援の充実を図るとともに、若い世代の移住・定住の促進に向けては、本市の魅力を高めていくことはもとより、それらの魅力について、SNSをはじめとする多様なツールを活用しながら、若い世代のニーズに合わせて効果的に発信するシティプロモーションに一層力を入れて取り組んでいく必要があると評価する。

基本目標Ⅳ 誰もが安全に安心して健やかに暮らせる、個性輝くまちを創る

(1) 取組の概要

具体的施策1 健やかに暮らせる環境づくり

市休日夜間緊急診療所における365日の診療体制の継続や小児・周産期・救急医療を担う医療機関の運営支援のほか、医師修学資金貸与事業等による将来の医療人材の育成などに取り組んだ。さらに、新型コロナウイルス感染症への対応については、新たに設置した市保健所を中心に、感染状況の把握、感染者の健康観察のほか、各施設や市民に感染予防を周知するなど、市民が安心して医療を受け、健やかに暮らせる環境の充実に努めた。

また、在宅医療と介護連携による切れ目のない支援体制の構築やいきいき交流センターにおける高齢者の社会参加の促進による生きがいづくりなど、生涯にわたって生き生きと健やかに暮らせる環境づくりを進めた。

さらには、全ての人が安心して移動できる交通体系の実現に向けて、路線バスの運行支援や市内11地区における水都タクシーすいっとの運行等にも取り組んだ。

具体的施策2 安全に安心して暮らせる環境づくり

都市下水路の整備や排水溝の整備など、浸水被害に即効性のある対策を講じるとともに、地域と連携した防災訓練の実施や災害時要配慮者への支援の充実、防災情報の伝達体制の強化等を図り、ハード・ソフト両面での防災対策に取り組んだ。

また、消費生活の向上を図り、複雑化・多様化する消費者を取り巻く環境に対応していくため、出前講座をはじめとした啓発活動にも取り組んだ。

具体的施策3 活躍できる環境づくり

町内会・自治会への加入促進に向け、町内会・自治会カードの導入や対象店舗の拡大等に取り組み、地域コミュニティの活性化を図る取組を推進したほか、NPOやボランティア団体と連携した協働事業の実施やこみっとフェスティバルの開催を通して、市民等との協働によるまちづくりを推進した。

また、本市と大学、民間事業者間における連携協力体制を構築し、幅広い分野において地域の発展や市民サービスの向上に取り組んだほか、デジタル技術を活用して窓口手続の簡略化を図るなど、市民の利便性を高めるデジタル化の取組を進めた。

(2) KPI 及び数値目標について

KPIのうち、「安心・安全見守り隊参加団体・事業者数」及び「産・学・官連携事業数」は順調に推移している。「自主防災組織による防災訓練等の参加者数」や「福祉ボランティアの活動件数」等については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、目標値を下回っている状況であるが、2022年度には大きく実績値が回復しており、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した2023年度については、更なる上積みが見込める見込みである。

数値目標の「社会増（人口動態）」については、基準値時点では転出超過であったものの、2020年度以降は転入超過の状態を維持しており、2020年度から2021年度にかけては、目標値を上回る結果となっている。

(3) 評価

基本目標Ⅳについては、各施策に位置付けた個別事業の推進により、本市の魅力が向上したことも、転入超過につながっている要因の一つであると考えられる。

そのため、今後も医療、福祉、防災、公共交通など幅広い分野において、市民や事業者等との連携を深め、着実に各事業を推進するとともに、市民の利便性を高め、豊かな生活を実現するツールの一つとしてデジタル技術を積極的に活用しながら、誰もが安全に安心して暮らせるまちづくりを進めていく必要があるものと評価する。

4 重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

各基本目標に掲げる重要業績評価指標（KPI）について、計画の最終年度（2023年度）の目標達成に向けた2022年度における進捗状況をまとめると以下のとおりである。

基本目標	重要業績評価指標（KPI）の達成度				
	総数	順調	概ね順調	遅れ	未算出
I 生き生きと働けるしごとを創る	3	1	2		
II 新たなひとの流れを生み出す	6	1		4	1
III 結婚・出産・子育てを応援する	6	3	1	2	
IV 誰もが安全に安心して健やかに暮らせる、個性輝くまちを創る	6	2	1	3	
計	21	7	4	9	1

(達成度の評価)

順 調：実績値が、基準値から見て期待値の100%以上

概ね順調：実績値が、基準値から見て期待値の50%以上100%未満

遅 れ：実績値が、基準値から見て期待値の50%未満

水戸のまち創生重点プログラムの達成目標及び基本目標の数値目標について

※2023年度の実績値については、2023年9月時点の速報値を記載。

※実績値欄の矢印は前年度比の増減を示す。

1 水戸のまち創生重点プログラムの達成目標

項目	基準値 (2018年度)	実績値 (2020年度)	実績値 (2021年度)	実績値 (2022年度)	参考 (2023年9月時点)	目標値 (2023年度)
20～39歳の社会動態 (生産年齢人口の概ね 前半世代)	▲23人	246人 ↗	415人 ↗	99人 ↘	▲313人 ↘	250人

2 基本目標の数値目標

項目	基準値 (2018年度)	実績値 (2020年度)	実績値 (2021年度)	実績値 (2022年度)	参考 (2023年9月時点)	目標値 (2023年度)
基本目標Ⅰ 生き生きと働けるしごとを創る						
市民所得	909,272百万円 (2016年度)	952,981百万円 (2018年度) ↗	961,737百万円 (2019年度) ↗	896,787百万円 (2020年度) ↘	2024年6月 公表予定	0.6%増/年 (935,687百万円)
生産年齢人口の 就業率	69.3% (2015年)	69.3% (2020年度) →	—	—	—	72.0% (2020年)
基本目標Ⅱ 新たなひとの流れを生み出す						
観光交流人口	3,676,200人	1,426,000人 ↘	1,616,100人 ↗	2,044,800人 ↗	2024年9月 公表予定	4,500,000人
市内ICにおける 降車台数 (年間下車台数)	7,740,667台	6,311,690台 ↘	6,759,217台 ↗	7,270,578台 ↗	2024年6月 公表予定	7,890,000台
基本目標Ⅲ 結婚・出産・子育てを応援する						
合計特殊出生率	1.52	1.39 ↘	1.39 →	1.34 ↘	2024年12月 公表予定	1.68
子育て世帯の社会 動態(18歳以下の 子を持つ20～39歳 の世帯)	▲107世帯	▲11世帯 ↗	▲27世帯 ↘	▲55世帯 ↘	▲129世帯 ↘	50世帯
基本目標Ⅳ 誰もが安全で安心して健やかに暮らせる, 個性輝くまちを創る						
社会増(人口動態)	▲177人	429人 ↗	799人 ↗	140人 ↘	95人 ↘	400人

重要業績評価指標(KPI)について

※2023年度の実績値は2023年9月時点での速報値を記載。

※実績値欄の矢印は、前年比の増減を示す。2023年度については、2022年9月時点の実績値との比較をしている。

基本目標Ⅰ 生き生きと働けるしごとを創る							
具体的施策	KPI	基準値 (2018年度)	実績値 (2020年度)	実績値 (2021年度)	実績値 (2022年度)	参考(2023年 9月時点)	目標値 (2023年度)
(1) 地域経済をけん引する産業競争力の強化	市内製造品出荷額 (年間) 単位: 百万円	144,529 (2017年度)	126,471 ↓	150,965 ↑	2024年8月 公表予定	2025年8月 公表予定	156,254
	企業誘致による立地 事業所数(累計) 単位: 事業所	15	20 ↑	21 ↑	25 ↑	28 ↑	36
(2) 多様な雇用の場の創出, 地域雇用の促進	創業支援事業計画推 進事業等による新規 創業件数(累計) 単位: 件	323	496 ↑	596 ↑	740 ↑	2024年6月 公表予定	594
	事業承継した事業所 等の件数(累計) 単位: 件	—	7	※市町村別データが非公表となったため, KPI の項目としては用いないこととする。			

基本目標Ⅱ 新たなひとの流れを生み出す								
具体的施策	KPI	基準値 (2018年度)	実績値 (2020年度)	実績値 (2021年度)	実績値 (2022年度)	参考(2023年 9月時点)	目標値 (2023年度)	
(1) 戦略的観光の振興による交流の拡大	市内外国人観光客数 (年間) 単位: 人	64,000	※新型コロナウイルス感染拡大の影響により国 調査中止のため算出不可。					100,000
	誘致活動によるコンベン ション開催数(年間) 単位: 件	146	57 ↓	53 ↓	58 ↑	35 (4~9月) ↑	166	
(2) 芸術文化・スポーツ文化の交流によるにぎわいの創出	水戸芸術館入場者数 (市外事業を除く)(年間) 単位: 人	213,565	28,632 ↓	49,724 ↑	99,805 ↑	55,232 (4~9月) ↑	265,000	
	大規模スポーツ大会 (東日本大会以上)の 開催・誘致数(年間) 単位: 件	10	1 ↓	7 ↑	16 ↑	5 (4~9月) ↓	13	
(3) 自然, 歴史資源を生かした魅力ある交流拠点の形成	偕楽園の入込観光客数 (年間) 単位: 人	974,040	430,389 ↓	369,810 ↓	285,075 ↓	361,757 (1~9月) ↑	1,200,000	
	弘道館の入込観光客数 (年間) 単位: 人	87,164	37,725 ↓	51,925 ↑	55,245 ↑	55,672 (1~9月) ↑	150,000	

基本目標Ⅲ 結婚・出産・子育てを応援する							
具体的施策	KPI	基準値 (2018年度)	実績値 (2020年度)	実績値 (2021年度)	実績値 (2022年度)	参考(2023年 9月時点)	目標値 (2023年度)
(1) 安心して子どもを 生み育てることのできる 環境の充実	子育て支援・多世代交流事業の利用者数 (市民センター子育て広場等を含む)(年間) 単位:人	105,615	17,631 ↘	23,780 ↗	33,184 ↗	24,304 (4~9月) ↗	130,000
	開放学級待機児童数 単位:人	111	0 →	0 →	0 →	0 →	0
(2) 未来を切り拓く力を 育む水戸スタイルの教育の 推進	学力診断のためのテスト(県)の各教科における平均点(県平均との比較) 単位:点	[小6]+0.3 [中3]+1.0	[小6]- ※中3のテストが廃止となったため、小6の実績値のみで評価。	[小6]-1.4 ↘	[小6]-1.3 ↗	2024年6月	[小6]+2.0
	小・中学校校舎トイレの洋式化率 単位:%	44.1	62.7 ↗	93.6 ↗	93.6 →	93.6 →	100
(3) 移住・定住の推進	まちなか住みかえ支援事業利用件数(累計) 単位:件	43	73 ↗	125 ↗	189 ↗	200 ↗	299
	わくわく茨城生活実現事業における支援件数(年間) 単位:件	-	0 ↗	1 ↗	17 ↗	14 (4~9月) ↗	10

基本目標Ⅳ 誰もが安全に安心して健やかに暮らせる、個性輝くまちを創る							
具体的施策	KPI	基準値 (2018年度)	実績値 (2020年度)	実績値 (2021年度)	実績値 (2022年度)	参考(2023年 9月時点)	目標値 (2023年度)
(1) 健やかに暮らせる 環境づくり	水戸市安心・安全見守り隊参加団体・事業者数(累計) 単位:団体等	178	185 ↗	189 ↗	193 ↗	212 ↗	196
	路線バス利用者数(一日当たり) 単位:人	34,765	29,862 ↘	19,489 ↘	24,318 ↗	2024年8月 公表予定	35,794
(2) 安全に安心して暮らせる 環境づくり	空家等件数 単位:件	835	757 ↗	775 ↘	804 ↘	907 ↘	793
	自主防災組織による防災訓練等の参加者数(年間) 単位:人	14,039	2,789 ↘	2,362 ↘	8,084 ↗	4,908 (4~9月) ↗	15,000
(3) 活躍できる環境づくり	福祉ボランティアの活動件数(年間) 単位:件	353	144 ↗	215 ↗	318 ↗	174 (4~9月) ↗	375
	産・学・官連携事業の数(累計) 単位:件	349	402 ↗	413 ↗	458 ↗	2024年6月 公表予定	433

「若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略」における主な具体的取組の一覧

施策の柱・具体的施策・主な事業		事業概要	主な具体的取組	担当課
施策の柱 I しごとの創生				
【具体的施策1】 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出	創業・スタートアップ支援の充実	起業家精神を育む創業機運の醸成	創業機運醸成事業 大学等と連携した起業家精神の養成	商工課 商工課
		創業に関する包括的支援の推進	切れ目のない創業・スタートアップ支援	商工課
		多様なニーズを踏まえた創業支援拠点の機能強化	コワーキングスペース水戸におけるセミナーの開催や伴走型支援等の充実	商工課
		中小企業の成長支援	中小企業の経営革新・経営基盤強化支援	大学等と連携した起業家精神の養成 産業活性化コーディネーターを活用した中小企業経営力強化支援
	リスキリングやリカレント教育の支援による人材の育成		リスキリングやリカレント教育の支援による人材の育成	商工課
	円滑な事業承継の促進		円滑な事業承継に向けた関係機関との連携	商工課
	DX推進等による企業の生産性向上支援		DX、GX推進のための設備・機器導入支援 DX等先進的取組を行う企業認定制度	商工課 商工課
	企業立地の促進	企業誘致活動の推進	企業誘致活動の推進	商工課
		サテライトオフィス等誘致活動の推進	サテライトオフィス等誘致活動の推進	商工課
		新たな誘致先用地の確保	新たな誘致先用地の確保	商工課
	ライフスタイルにあわせた働きやすい環境づくり	誰もが働きやすい環境づくり	企業の魅力ある職場づくり支援	商工課
		子育て世帯が安心して働ける環境づくり	子育て世帯におけるワーク・ライフ・バランスの推進	商工課
		女性が活躍できる環境づくり	働く場における女性活躍推進	男女平等参画課
		仕事と介護を両立できる環境づくり	仕事と介護を両立できる環境づくり	介護保険課
	【具体的施策2】 地域経済をけん引する各種産業の振興	商工業の経営力強化	デジタル化による地域経済好循環の推進	キャッシュレス決済・電子商店街の導入支援
ものづくり産業の振興			ものづくり産業の振興	商工課
新たなビジネスモデルの創出			ビジネスマッチング会開催支援等による新たなビジネスモデルの創出	商工課
地域産業系拠点の機能強化・集積促進			地域産業系拠点の機能強化・集積促進	商工課
観光業の強化		観光特産品の魅力向上	観光特産品のブランド化推進	観光課
		伝統産業の振興	伝統産業(地酒、水府提灯等)の振興	観光課
		観光特産品の販路拡大	物産展開催をはじめとする観光特産品の販売促進	観光課
安心な食を支える農業の振興		未来に向けたチャレンジへの支援	新規就農者の確保及びスタートアップ支援	農政課
			農福連携によるわら納豆の未来への継承	農政課
			スマート農業の推進	農産振興課
		農業経営安定化に向けた支援の充実	農地集積・集約化の推進	農政課
			環境にやさしい農業の推進	農産振興課
	農産物のブランド化の推進、販路拡大		地産地消の推進 農産物のブランド化の推進	農産振興課 農産振興課
商店街活性化の支援	デジタル技術の活用をはじめとした商店街活性化支援	商店街活性化の支援	商工課	
		店舗・事務所等の開設支援	商工課	
		中心市街地商店街活性化の支援	商工課	
公設地方卸売市場の活性化	公設地方卸売市場の利用促進	市場イベントの充実及び情報発信	公設地方卸売市場	
	デジタル技術の活用等による公設地方卸売市場の機能強化・再整備	市場再整備	公設地方卸売市場	
まちなかの活性化	経済循環を生み出すにぎわいづくり	MitoriOにおけるにぎわいづくり	新市民会館整備課	
		MitoriOからまちなかへの回遊促進	商工課	
	まちなかにおける多様な活動促進	民間まちづくり団体との連携、支援	商工課	
		民官連携によるまちなかのにぎわいづくり	商工課	
	魅力的なまちなかの空間づくり	居心地が良く歩きたくなるまちづくりの推進 まちなかにおける再開発事業の推進	都市計画課 市街地整備課	

【具体的施策3】 水戸のまちを楽しむ人を増やすことによるにぎわいの創出	戦略的な観光事業の展開	多くの人が訪れたい魅力づくり	借楽園・千波湖周辺における戦略的観光事業の展開 弘道館・水戸城跡周辺における戦略的観光事業の展開	観光課 観光課	
		経済効果をも高める稼ぐ力の強化	宿泊型・滞在型観光の推進	観光課	
		ターゲットに応じた戦略的観光PR	インバウンド観光の推進 水戸ならではの資源を活用した戦略的観光PR	観光課 観光課	
	コンベンション等の誘致推進・開催支援	芸術文化、スポーツ、学術といった多様な分野のコンベンション等の誘致推進	大規模スポーツ大会やプロスポーツ等の大会の開催・誘致 コンベンション誘致推進事業	スポーツ課 観光課	
		主催者等のニーズを踏まえたコンベンション支援の充実	主催者等のニーズを踏まえたコンベンション支援の充実	観光課	
	芸術文化の振興	MitoriOを拠点とする芸術文化の創造・発信	MitoriOを拠点とする芸術文化の創造・発信	文化交流課	
		水戸ならではの芸術文化活動の促進	市民主体の芸術文化活動の促進	文化交流課	
	スポーツの振興	スポーツを通じたにぎわいの創出	プロスポーツチームを通じた地域の活性化	スポーツ課	
			水戸黄門漫遊マラソンの開催	スポーツ課	
		市民がスポーツを楽しめる環境の充実	各種大会、行事等の開催支援	スポーツ課	
市民がスポーツを楽しめる環境の充実			スポーツ課		
【具体的施策4】 誰もが訪れたい魅力ある交流拠点の形成	文化資源を生かした交流拠点づくり	芸術文化の発信拠点MitoriOの魅力向上	水戸美術館の運営充実 水戸市民会館の運営充実	文化交流課 新市民会館整備課	
		誰もが楽しめるスポーツ施設の魅力向上	スポーツ施設(アダストリアみとアリーナ、ケーズデンキスタジアム水戸)の機能強化整備 スポーツ施設等の環境整備	体育施設整備課 体育施設整備課	
		歴史的資源の活用によるまちの魅力向上	日本遺産を生かしたブランド力の向上	歴史文化財課	
			歴史的建造物を活用した魅力づくり	歴史文化財課	
	自然を生かした交流拠点づくり	借楽園・千波湖周辺地区の魅力向上	借楽園公園(千波公園等)の整備 千波公園におけるパークPFを活用した魅力的な公園整備	公園緑地課 公園緑地課	
		植物公園周辺地区の魅力向上	植物公園の再整備	公園緑地課	
		森林公園周辺地区の魅力向上	森林公園の再整備	農政課	
		豊かな自然を生かした公園等の魅力向上	民間活力等を活用した楽しめる公園づくり 公園リノベーションの推進	公園緑地課 公園緑地課	
	施策の柱Ⅱ ひとの創生				
	【具体的施策1】 安心して子どもを 生み育てること のできる環境の充 実	子育て世帯の負担軽減	子育てに係る経済的支援の充実	出産・子育て応援ギフトの給付	こども政策課
小・中学校新入生応援金の給付				こども政策課	
保育料の段階的無償化				幼児保育課	
学校給食費の無償化の推進				学校保健給食課	
奨学金による支援				学校管理課	
多様なニーズに対応した相談支援等の充実		安心と利便性を感じるこども・子育てDXの推進	子育て支援アプリをはじめとしたこども・子育てDXの推進	こども政策課	
		保健、医療、福祉、保育、教育などの関係機関と連携した包括的な相談支援の充実	伴走型相談支援の充実	子育て支援課	
		こどもの健康や発達に関する支援の充実	こどもの発達支援の充実	子育て支援課	
		こどもや家庭を取り巻く社会的課題への対応	経済的な困難を抱える家庭、こどもの支援 児童虐待防止対策の推進	こども政策課 子育て支援課	
地域で育む子育て支援の充実		多様なニーズに応える子育て支援サービスの推進	地域における子育て支援サービスの充実(ファミリー・サポート・センター事業、一時預かり事業、病児保育事業の推進)	こども政策課	
	親子で楽しめる子育て支援拠点づくり	わんぱく・みと、はみんぐばーく・みと、あかしあ等の運営充実 地域子育て支援拠点事業、市民センター子育て広場等の運営充実	こども政策課 こども政策課		
安心して預けられる環境づくり	安全で質の高い幼児教育・保育サービスの推進	多様なニーズに応える保育サービスの充実	幼児保育課		
		市立保育所等におけるDXの推進	幼児保育課		
		質の高い幼児教育・保育の推進	幼児保育課		
放課後児童の居場所づくりの推進	放課後学級及び放課後子ども教室の充実	こども政策課			

妊娠・出産、小児・周産期医療等に係る支援の充実	妊娠、出産に関する多様な支援	「すまいるママみと」を中心とした妊産婦支援の充実 不妊・不育症治療費の助成	子育て支援課 子育て支援課		
	安心できる小児医療・周産期医療等の充実	妊産婦、こどもに対する医療費の助成 小児医療・周産期医療体制の確保	国保年金課 保健総務課		
結婚支援の推進	結婚支援事業の推進	結婚支援事業の推進	こども政策課		
【具体的施策2】 未来を生きる力を育む魅力ある教育の推進	水戸スタイルの教育の推進	確かな学びと学習意欲を高めるチャレンジプランの推進	教育DXの推進	教育研究課	
		世界で活躍できる資質を磨くグローバルプランの推進	未来を創る力を育むSTEAM教育の実践	教育研究課	
		郷土を愛し、豊かな感性を磨くキャリアプランの推進	郷土を愛する心を育む体験学習等の充実	教育研究課	
		いのちや人権を大切にふるふれあいプランの推進	こどもたちへの芸術文化教育の推進	文化交流課	
	豊かな人間性を育む教育の推進	水戸産品を取り入れた魅力的な学校給食を通じた食育の推進	いじめの未然防止、早期発見、早期対応の取組の推進	学校給食を通じた食育の充実	学校保健給食課
		豊かな心を育む文化教育の推進	学校図書館の充実	中央図書館	
		健やかな心と体を育む環境づくりの推進	学校保健の充実	学校保健給食課	
		地域と連携した教育環境づくりの推進	地域スポーツ・文化クラブ活動の推進	教育研究課	
	快適な学習環境の整備	快適な学習環境を支える学校施設整備の推進	地域との協働による魅力ある学校づくり	生涯学習課	
			屋内運動場への空調設備設置の推進	屋内運動場への空調設備設置	学校施設課
多様な教育活動を支える体制の充実	不登校支援・教育相談体制の充実	不登校支援・教育相談体制の充実	教育研究課		
	一人一人の教育的ニーズを踏まえた特別支援教育の充実	一人一人の教育的ニーズを踏まえた特別支援教育の充実	教育研究課		
	質の高い教育体制の構築	教職員の資質能力の向上	教育研究課		
【具体的施策3】 こども・若者が活躍できる機会の創出	こどもたちの多様な体験活動の促進	市民団体等と連携した多様な体験活動の促進	こども会・NPO法人が実施する多様な体験活動の支援	生涯学習課	
		少年自然の家を活用した豊かな自然体験の推進	青少年育成団体の自主的な活動支援	生涯学習課	
	こども・若者が主体的に活動できる環境づくり	こども・若者が活躍したくなる環境づくり	青少年・若者のボランティア活動の促進	生涯学習課	
		こども・若者の健やかな成長を支える取組の推進	青少年の非行防止に向けた取組の推進	生涯学習課	
		こどもの挑戦を応援する仕組みづくり	チャレンジ応援制度の創設及び推進	こども政策課	
	若い世代との協働によるまちづくり	若者との協働による地域課題の解決に向けた取組の推進	若者との協働による政策立案の推進	政策企画課	
		若い世代からの広聴機会の充実	高校生、大学生等との行政懇談会、幅広い年代による市民懇談会の開催 デジタル技術を活用した広聴の推進	みとの魅力発信課 みとの魅力発信課	
	施策の柱Ⅲ まちの創生				
生命と健康を守る医療環境づくり	安心できる充実した医療提供体制の維持・確保	安定的な医療提供体制の維持・確保	保健総務課		
	様々なニーズに対応した支援体制づくり	地域医療を支える人材の育成・確保	保健総務課		
		緊急時にも適切な医療が受けられる環境づくり	難病対策における関係機関と連携した相談支援 医療費助成等の推進	地域保健課 国保年金課	
生涯にわたって健やかに暮らせる環境づくり	日頃からの多様な健康づくりの推進	緊急診療体制の充実	保健総務課		
	健康危機から市民を守る環境づくり	救急業務の高度化	救急課		
		こころの健康づくりの推進	市民一人一人の健康づくりの推進	地域保健課	
	生活衛生の確保	デジタル技術を活用した健康づくり	デジタル技術を活用した健康づくり	地域保健課	
		健康危機から市民を守る環境づくり	予防接種体制の充実	保健予防課	
感染症対策の強化	感染症対策の強化	保健予防課			
こころの健康づくりの推進	こころの健康づくり	保健予防課			
自殺対策の推進	自殺対策の推進	保健予防課			
生活衛生の確保	生活衛生の確保	保健衛生課			

【具体的施策1】 生き生きと健やかに暮らせる環境づくり	生涯にわたって生き生きと暮らせる環境づくり	地域コミュニティ活動の活性化	町内会・自治会への加入促進	市民生活課	
			地域コミュニティ推進体制の充実	市民生活課	
		心を豊かにする生きがいづくりの推進	スポーツ、文化活動等を通じた社会参加の促進	障害福祉課	
			高齢者の社会参加や生きがいづくり	高齢福祉課	
		市民のボランティア・NPO活動の促進	ボランティア団体、NPO等の情報の共有、人材育成 市民のボランティア活動の参加促進・活動支援	市民生活課 市民生活課	
	地域で支えあい、助けあう環境づくり	地域とつながり、安心して暮らせる環境づくり		災害時要配慮者支援の充実	防災・危機管理課 福祉総務課
				安心・安全見守り隊の拡充	福祉総務課 高齢福祉課
		地域福祉推進体制の充実	地域福祉推進体制の充実	福祉総務課	
			福祉ボランティアの育成・活動支援	福祉総務課	
		地域包括ケアシステムの構築等による高齢者が安心して暮らせる環境づくり	在宅医療の推進	保健総務課	
【具体的施策2】 安全に暮らせる環境づくり	危機管理・防災対策の充実	あらゆる事態に対応できる危機管理体制づくり	危機管理対策の充実	防災・危機管理課	
			国民保護対策の推進	防災・危機管理課	
		あらゆる手段を活用した防災情報の伝達	デジタル技術を活用した災害情報の収集・伝達の強化	防災・危機管理課	
			防災情報の発信・啓発の強化	防災・危機管理課	
		市民等との協働による地域防災の推進	地域防災活動拠点の機能強化 いっせいで防災訓練、出前講座等の各種訓練や説明会の実施	防災・危機管理課 防災・危機管理課	
	消防・救急の充実	火災の未然防止と被害の軽減に向けた取組の推進		住宅用火災警報器の設置・維持管理の促進	火災予防課
				消防水利の維持・確保	消防救助課
		生命を守る救急活動の充実	増大する救急需要への対策強化	救急課	
		市民の安全を守る消防・救急体制の充実		消防・救急活動の拠点整備	消防総務課
				迅速・的確な通信指令体制の維持・確保	消防救助課
交通安全・防犯の充実	交通安全意識の普及・啓発		こどもの自転車安全教育の充実	交通政策課	
			交通安全意識の普及・啓発	生活安全課	
	安全な交通環境づくり	スクールゾーン等の安全対策の推進	生活安全課		
		交通安全施設の整備	土木補修事務所 内原建設事務所		
	安全なまちづくりに向けた防犯対策の強化	自主防犯活動の推進 犯罪防止に向けた市民、地域、関係団体等の連携強化	生活安全課 生活安全課		
消費生活の向上	消費者教育の推進	啓発活動及び消費者教育の推進	市民生活課		
	消費生活相談体制の充実	消費生活相談体制の充実	市民生活課		
快適に暮らせる住環境づくり	公共交通ネットワーク及び自転車利用環境の充実	利用しやすい公共交通の充実	公共交通機関の利用促進	交通政策課	
			公共交通におけるデジタル技術の活用に向けた取組の推進	交通政策課	
		公共交通を補完する移動手段の充実	公共交通空白地区等における移動支援	交通政策課	
			シェアサイクル事業の充実	交通政策課	
	自転車の利用促進	安全で快適な自転車利用環境の形成	交通政策課		
		ジテツウの促進	交通政策課		
	良好な住環境の形成	一人一人にあった住まいづくりの支援	市営住宅への太陽光発電設備の設置	住宅政策課	
			子育て世帯まちなか住みかえの促進	住宅政策課	
		住まいの総合案内の充実	住宅政策課		
		空き家・空き地の有効活用促進と対策強化	生活安全課		

【具体的施策3】 居心地がよく快適に暮らせる環境づくり	地球環境に優しいまちづくり	エコネ、エコネの活用による環境の持続的強化	既存住宅ストックの有効活用の促進	住宅政策課	
		ゼロカーボンエコシティ実現に向けた地球温暖化対策の推進	省エネルギー活動の促進	環境保全課	
			みとゼロカーボン未来住宅パッケージの推進	環境保全課 公園緑地課 衛生事業課 下水道計画課 ごみ減量課	
			循環型社会の形成に向けた取組の推進	ごみの減量化・再資源化の推進 集団資源物回収の促進	ごみ減量課 清掃事務所
		豊かな自然環境の保全	大気・水・土壌環境等の保全	環境保全課	
			森林保全の推進	農政課	
	誰もが理解しあい暮らしやすい環境づくり	すべての人の人権が尊重され、暮らしやすい環境づくり	男女平等参画社会に向けた意識醸成及び行動促進	男女平等参画課	
			こども、女性、高齢者、外国人、性的マイノリティなど、幅広い総合的な人権施策の推進	福祉総務課	
		誰もが平和への意識を持ち、多様な国籍や文化を理解しあうことができる環境づくり	国際交流・多文化共生の推進	文化交流課	
		人と動物が共生することができる環境づくり	動物愛護の意識の普及・啓発	保健衛生課	
	水戸らしい居心地のよいまちづくり	都市核・拠点の機能強化	赤塚駅北口駐車場の長寿命化改修	商工課	
			水戸駅北口駅前広場の整備	都市計画課	
			内原駅周辺の機能強化	市街地整備課	
		魅力的な都市空間の形成	良好な市街地景観の形成	都市計画課	
		快適な緑地、公園、花と緑の空間づくり	快適な緑地・公園づくり	公園緑地課	
			市民との協働による花と緑の空間づくり	公園緑地課	
		持続可能なコンパクトな都市構造の構築	市街化区域の宅地開発の適正な誘導	建築指導課	
		効率的・効果的な道路整備の推進	効率的、効果的な道路整備の推進	建設計画課	
		水道水の安定供給と生活排水の適正処理	し尿の効率的な処理体制の確立	衛生事業課 下水道整備課	
			水道事業の理解促進へ向けた広報・広聴の充実	水道総務課	
	施策の柱Ⅳ シティプロモーション				
	【具体的施策1】 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション	多様な手法によるプロモーションの推進	様々なメディアを活用したシビックプライドを高める行政情報の発信	市報、ラジオ、パブリシティ、市ホームページ、各種SNS等を活用した行政情報の発信	みとの魅力発信課
			ターゲットにあわせて魅せ方を変える戦略的プロモーションの展開	水戸の魅力を発信する特設サイトの開設	みとの魅力発信課
			みとアンバサダーなど、個人の発信力を生かしたプロモーションの展開	みとアンバサダー等による魅力の発信	みとの魅力発信課
フィルムコミッションの充実によるプロモーションの展開			フィルムコミッションの充実	みとの魅力発信課	
若い世代に届く、時代の変化を捉えた新たなプロモーションの展開			時代の変化に対応したシティプロモーション	みとの魅力発信課	
若い世代を呼び込めるイベントの展開			各種イベント(水戸まちなかフェスティバル、水戸黄門まつり、水戸黄門漫遊マラソン、水戸の梅まつり等)における若い世代を呼び込む要素の充実	スポーツ課 商工課 観光課	
移住を後押しする施策の充実		二地域居住など、一人一人が望むライフスタイルに応じた情報発信	移住特設サイトを活用したPR 移住・二地域居住に係る情報発信	政策企画課 政策企画課	
		一人一人に寄り添う移住相談体制の充実	移住相談窓口の開設、移住フェア等への出展	政策企画課	
		水戸の暮らしを体感する移住体験の推進	移住体験事業の展開	政策企画課	
		地域おこし協力隊制度の活用	地域おこし協力隊の活用	政策企画課 農政課	
		移住に係る負担の軽減	東京圏からの移住者に対する支援金の交付	住宅政策課	
若い世代のみとリターンの促進強化		若い世代が水戸とつながり続けるプラットフォームの構築	若い世代が水戸とつながり続けるプラットフォームの構築	政策企画課	
	市内外の若い世代に向けた魅力ある働く場のPR	合同企業説明会の開催	商工課		
		企業ガイド、就職面接会等による魅力的な企業の情報発信	商工課		
	高校生・大学生を対象としたインターンシップの充実	商工課			

令和5年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議における
新たな総合戦略骨子（案）に係る意見及び対応について

水戸市まち・ひと・しごと創生
有識者会議参考資料③
令和6年2月14日
市長公室政策企画課

委員	骨子（案）に対する意見概要	総合戦略素案・主な具体的取組における対応	主な関係課
[1] 三上委員	<p>「しごとの創生」の重点化について説明する内閣官房で実施したアンケートの結果について、なぜそもそも地方を気にしたのかという、その前の段階が抜けているような気がする。地方を気にした理由として、実家があるとか、いろいろな理由があると思うが、そのデータがないので、大きな動機がよく分からない。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P30～の付属資料「3 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」にて、地方移住者が地方移住に際して最初に意識したきっかけに係る調査結果を新たに記載した。</p> <p>それによると、若い世代の移住・定住における地域の選択には、仕事や生活の利便性、娯楽、子育て環境、人とのつながり等、様々な要因が影響している。その中でも、就職や転職等の仕事に関する要素の割合が大きいことが分かるように表現した。</p>	政策企画課
[2] 佐川委員	<p>総合戦略を策定するにあたり、以前は高校生や大学生にもアンケートを取っていたような記憶がある。高校生や大学生が水戸での就職をどう意識しているかというような項目があれば、説得力が上がるのではないか。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P30～の付属資料「3 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」の「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」において、大学生から若い世代の移住・定住には「しごとの創生」が課題であると提言を受けた際の概要を記載した。</p>	政策企画課
[3] 田山委員	<p>若者だけでなく女性の視点も重要であると思うため、「しごとの創生」か、「まちの創生」の具体的事業3に女性という文言を明記して欲しい。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P9「しごとの創生」具体的施策1の「ライフスタイルにあわせた働きやすい環境づくり」における事業概要として、「女性が活躍できる環境づくり」を位置付け、女性の就業支援や再就職支援を推進していくこととして整理した。</p>	男女平等参画課 福祉総務課 商工課
[4] 海老原委員	<p>女性活躍の部分は非常に重要だと思うので、女性の就業支援や再就職支援などが読み取れる計画にして欲しい。</p>	<p>また、P20「まちの創生」具体的施策3の「誰もが理解しあい暮らしやすい環境づくり」における事業概要「すべての人の人権が尊重され、暮らしやすい環境づくり」には、主な具体的取組として「男女平等参画社会に向けた意識醸成及び行動促進」及び「こども、女性、高齢者、外国人、性的マイノリティなど、幅広い総合的な人権施策の推進」を位置付けた。</p>	

<p>[5] 三上委員</p>	<p>「しごとの創生」を重点に置いて新たな総合戦略づくりが進められているが、まちの格をどう高めるかという点が1番目にないと、良い会社があったとしても、人を呼び込むことはできないのではないか。</p>	<p>P30～の付属資料「3 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」を踏まえ、P5～「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」のうち「1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」に記載したとおり、若い世代の移住・定住には、「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」が求められている。</p> <p>また、参考資料として、P30～の付属資料「3 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」の「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」において、大学生から若い世代の移住・定住には「しごとの創生」が課題であると提言を受けた際の概要を新たに記載している。</p> <p>これらを踏まえると、本市において、若い世代の移住・定住を図るためには、特に働く場の確保、雇用環境の充実が課題となっていることが分かるため、本戦略においては、「しごとの創生」のうち「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」に重点を置いていきたいと考えている。</p> <p>委員ご指摘のとおり、「しごとの創生」に加え、「まちの創生」「ひとの創生」も、もちろん重要であるため、P2「Ⅰ 戦略の基本事項」のうち「基軸とする三つの視点」に、それぞれの詳細を記載した。</p> <p>また、「まちの格」(＝地域のブランド力)の向上や、まちに対する愛着や誇り(＝市民のシビックプライド)の醸成についても、若い世代の移住・定住には大事な要素の一つであると認識している。これについては、「まち・ひと・しごとの好循環」による水戸の魅力向上と、もう一つの重点である「シティプロモーション」を一体的に推進することで形作られていくものであり、若い世代の移住・定住を一層加速させるものとして、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」において整理した。</p>	<p>政策企画課 みとの魅力発信課 商工課</p>
<p>[6] 海老原委員</p>	<p>基軸とする3つの視点のうち、「まち・ひと・しごとの好循環」に挙げられている、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「まち」をつくるという表現は違和感がある。「まち」が「ひと」を呼ぶのではないかと思うところであり、もう少し飲み込みやすいように表現したほうがいいのではないかと感じた。</p> <p>その上で、この戦略については、若い人の仕事に一番重点を置く計画であるというように整理した方が分かりやすくなるのではないか。</p>	<p>これらを踏まえると、本市において、若い世代の移住・定住を図るためには、特に働く場の確保、雇用環境の充実が課題となっていることが分かるため、本戦略においては、「しごとの創生」のうち「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」に重点を置いていきたいと考えている。</p> <p>委員ご指摘のとおり、「しごとの創生」に加え、「まちの創生」「ひとの創生」も、もちろん重要であるため、P2「Ⅰ 戦略の基本事項」のうち「基軸とする三つの視点」に、それぞれの詳細を記載した。</p> <p>また、「まちの格」(＝地域のブランド力)の向上や、まちに対する愛着や誇り(＝市民のシビックプライド)の醸成についても、若い世代の移住・定住には大事な要素の一つであると認識している。これについては、「まち・ひと・しごとの好循環」による水戸の魅力向上と、もう一つの重点である「シティプロモーション」を一体的に推進することで形作られていくものであり、若い世代の移住・定住を一層加速させるものとして、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」において整理した。</p>	<p>政策企画課 みとの魅力発信課 商工課</p>
<p>[7] 鬼澤委員</p>	<p>「まち・ひと・しごとの好循環」について、「しごと」が先に来るのは違和感がある。この順番にするのであれば、納得できるような文言や文章を考えた方が、説得力が上がるのではないか。</p>	<p>委員ご指摘のとおり、「しごとの創生」に加え、「まちの創生」「ひとの創生」も、もちろん重要であるため、P2「Ⅰ 戦略の基本事項」のうち「基軸とする三つの視点」に、それぞれの詳細を記載した。</p> <p>また、「まちの格」(＝地域のブランド力)の向上や、まちに対する愛着や誇り(＝市民のシビックプライド)の醸成についても、若い世代の移住・定住には大事な要素の一つであると認識している。これについては、「まち・ひと・しごとの好循環」による水戸の魅力向上と、もう一つの重点である「シティプロモーション」を一体的に推進することで形作られていくものであり、若い世代の移住・定住を一層加速させるものとして、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」において整理した。</p>	<p>政策企画課 みとの魅力発信課 商工課</p>

<p>[8] 笹尾委員</p>	<p>創業・スタートアップ支援の充実は大切でぜひ進めていただきたいが、重要になるのは支援策がどの地域でも横並びになりがちなことだと思う。他地域と比べても、水戸の支援はすごいと言われるような施策をやっていくべきではないか。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」のうち「1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」において、新たな取組として、起業家精神の育成や企業の成長につながる知識の習得など、若い世代の力となり、更なる活躍を後押しするための取組を実施していく旨を記載した。</p> <p>また、それらをP9「しごとの創生」具体的施策1における事業概要や主な具体的取組でも位置付けた。</p> <p>他地域と比べて優れた支援策については、本戦略を推進する中で、関係部署（商工課等）において検討していく。</p>	<p>商工課</p>
<p>[9] 海老原委員</p>	<p>スタートアップとも関係し、大学との連携で、これまでのインターンシップより進んだ形で就業体験をさせるようなプログラムも始まると伺っている。こういった取組が、地域への就職、あるいは創業・スタートアップにつながっていく可能性があるため、それが読み取れるような形にしてほしい。交付金などを申請するときには、戦略のどこで読み取れるのかということが大事になるので、意識していただきたい。</p>	<p>茨城大学における「地域未来共創学環（コーオペ教育）」は、ビジネスとデータサイエンスを中心とした文理横断の学びから、地域課題の解決や、新たな価値創出に挑戦する実践的な人材を養成することを目的に設置されるものと認識している。</p> <p>本戦略において、「地域未来共創学環（コーオペ教育）」自体を記載はしていないが、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」における「1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」にて記載している、起業家精神を育む創業機運の醸成と考えを同じくするものである。</p> <p>そのため、同項に記載のとおり、創業・スタートアップの促進に向けて連携して推進していく。</p> <p>また、市内企業における高校生・大学生のインターンシップの充実についても、P22「シティプロモーション」具体的施策1における「若い世代のみとリターンの促進強化」における主な具体的取組に「高校生・大学生を対象としたインターンシップの充実」を位置付けて推進していく。</p>	<p>政策企画課 商工課</p>

<p>[10] 二川委員</p>	<p>コンベンションを誘致したとしても、日帰りではにぎわいの創出につながらないと思うので、宿泊をしていただく必要がある。そのため、夜を楽しんでいただくコンテンツを増やしていくことが、まちなかの交流人口にもつながり、「しごとの創生」にもつながってくると思うので、具体的な施策を考えた方がいいのではないか。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P11「しごとの創生」具体的施策3のうち「戦略的な観光事業の展開」の事業概要「経済効果を高める稼ぐ力の強化」において、主な具体的取組として「宿泊型・滞在型観光の推進」を位置付けた。</p> <p>また、既存の事業の推進に加え、新たな具体的取組についても、本戦略を推進する中で、関係部署（観光課等）において検討していく。</p>	<p>観光課</p>
<p>[11] 海老原委員</p>	<p>「しごとの創生」具体的施策3と4については、「まちの創生」や「シティプロモーション」と重なる部分も多いと感じる。具体的施策3「にぎわいの創出」については「シティプロモーション」に、具体的施策4「交流拠点の形成」は「まちの創生」に再掲するなど、工夫するとより分かりやすくなるのではないか</p>	<p>委員ご指摘のとおり、各具体的施策は多面的な要素を持っており、「しごとの創生」「ひとの創生」「まちの創生」「シティプロモーション」という柱の区分の中で、重なる部分もあるものと認識している。</p> <p>そのことを踏まえた上で、本戦略においては、それぞれの柱の中で、その視点から見た独自の切り口を各具体的施策として位置付けているものであるため、あえて別掲は行わずに各柱の特徴を立てていきたいと考えている。</p>	<p>政策企画課</p>
<p>[12] 鈴木委員</p>	<p>数値目標の観光消費額について、「しごとの創生」という中で、観光も大きな役割を果たしていくとは思いますが、裾野が広いとはいえ、柱の数値目標として適しているのかという疑問がある。市内の消費には様々な種別の消費があり、外部から観光客として来た人が水戸で使った金額だけを計算するというところで、全体を捉えているのか疑問に感じる。</p> <p>計算についても、大まかな計算になってしまうと思う。海外からのインバウンド客も県内の観光客も同じ金額を掛けて算出しているのではないかと思うので、実態と乖離した数値とならないように工夫してほしい。</p>	<p>「しごとの創生」における基本目標「持続的な経済発展による豊かで楽しめるMITOの実現」の評価において、市内外の消費を測定する「観光消費額」は、市内経済の状況を示す重要な指標であると認識していることから、本戦略においては、「しごとの創生」における数値目標として設定している。</p> <p>算出方法は、茨城県観光客動態調査における県の数値からの推計であるが、同調査は、官公庁の「観光入込客統計に関する共通基準」を踏まえてとりまとめられており、海外や県内外など、観光客の発地別に観光消費額の単価を掛けて算出されているものであるため、適切な数値であると考えている。</p>	<p>政策企画課 観光課</p>

<p>[13] 渡辺委員</p>	<p>スタートアップ支援と創業について、現在、インボイス制度や最低賃金のアップにより、従業員が雇えない事業者が多くなってきており、今後、DXにより人を削減していく動きが強まるのではないかと考えられる。そういった観点から、後継者問題が課題となっており、黒字化はしているものの、会社を畳まなければならない事業者が市内には多くあると聞いている。そのようなことから、ハードルが高いスタートアップの支援ではなく、後継者問題も視野に入れてみてはどうか。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P9「しごとの創生」具体的施策1のうち「中小企業の成長支援」における事業概要として、「円滑な事業承継の促進」を位置付け、重点施策の一つとして、引き続き促進していく。</p>	<p>商工課</p>
<p>[14] 三上委員</p>	<p>「ひとの創生」については、自分のまちにないものを欲しがるのではなく、自分の住むまちにどれだけいいものがあるかということ伝えて欲しい。水戸のまちをどう満喫するかということ、しっかりと伝えるプログラムがあるといいのではないか。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」のうち「2 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション」において、若い世代の移住・定住の促進に向けては、本市の多様な魅力をより多くの若者に伝え、本市に住みたい、ずっと住みたいと感じてもらう必要がある旨を記載した。</p> <p>そのことから、同項目に新たな取組として記載した、若い世代と本市がつながり続けるプラットフォームの活用等により、水戸のまちをどう満喫するかということをしかりと若い世代に伝え、本市に住み続ける選択を促していく。</p>	<p>政策企画課</p>
<p>[15] 萩谷委員</p>	<p>水戸のまちに誇りや愛着を持っている子どもたちを育むということは非常に重要であると考えている。「ひとの創生」基本的方向の2段落目のところに、水戸のまちに誇りや愛着を持つ子どもたちの育成ということをしかり表現したほうがいい。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P13「ひとの創生」具体的施策2につながる基本的方向において、郷土を愛する心を育てる教育を実施していく旨を記載した。</p> <p>また、水戸スタイルの教育におけるキャリアプランをはじめとした既存の事業の推進に加え、新たな具体的取組についても、本戦略を推進する中で、関係部署（教育委員会等）において検討していく。</p>	<p>政策企画課 教育研究課</p>

<p>[16] 佐川委員</p>	<p>水戸市内に限らず、高校生に対して、水戸で働くイメージや働き方、ライフスタイルなどを伝えて、理解してもらえるような機会を持っていないのかと思う。</p> <p>市においては、しごとに関わる部分でも、大学と連携した取組を実施しているが、大学においても、ビジネスプランコンテストなどを主催している。ビジネスプランコンテストについては、最終選考に残ってくるチームの大部分は高校生であるため、産業界とも連携し、高校生の夢を応援し、水戸で実現する後押しをしていくことが必要ではないか。</p>	<p>茨城大学や常磐大学におけるビジネスプランコンテストは、学生や生徒の起業家精神や企画力、課題発見・解決力を育む素晴らしい取組と認識している。</p> <p>それらは大学における事業であるため、本戦略において直接的に記載をするものではないが、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」における「1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」にて記載している、起業家精神を育む創業機運の醸成と考えを同じくするものである。</p> <p>そのため、同項に記載のとおり、創業・スタートアップの促進に向けて連携して推進していく。</p>	<p>政策企画課 商工課</p>
<p>[17] 佐川委員</p>	<p>学力の向上が KPI に入っているが、少し悩ましい部分もある。水戸市内や県内で受け入れられる学生数は限られ、県全体で 75% が大学進学で県外に行く。高校卒業後の地元定着が課題となるが、学力を上げれば上げるほど、高等教育を受けるために県外に出ていくという実態があるので、何を目指していくのかということを検討していく必要がある。</p>	<p>こどもたちの学力が高まることは、こどもたち自身の夢の実現の後押しにつながるとともに、本市の未来をリードする人材を育むという視点からも、重要な要素の一つと認識している。</p> <p>一方で、委員ご指摘のとおり、学力の向上により、更に難易度の高い高等教育を受けるために転出していく者がいる実態もあるものと考えている。</p> <p>これらについて重要なことは、若い世代の教育環境の違いによる転出を防ぐことではなく、こどもたちの将来の選択肢を増やすための基盤として、一定程度の学力を持ってもらうことを目指しながら、市外に転出した若い世代に対し、しっかりと UJ ターンを促していくことと考えている。</p>	<p>政策企画課 みとの魅力発信課 教育研究課</p>
<p>[18] 笹尾委員</p>	<p>全く同じで、総合戦略の KPI に「全国学力・学習状況調査平均正答率」を設定することについては疑問を感じる。</p>	<p>そのため、P15「ひとの創生」具体的施策 2 において、全国平均に届くことを目標とした学力向上に係る K P I を位置付けるとともに、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」の「2 若い世代に水戸の魅力伝えるシティプロモーション」に記載している、進学や就職等で本市を離れた方の将来的な U J ターンを促す新たな取組等に重点的に取り組んでいく。</p>	

<p>[19] 鬼澤委員</p>	<p>学力の向上は大事な部分ではあるが、点数を上げることが大事なのではなく、学ぶことによって、考える力を身に付けることが重要。そのため、ペーパーテストの点数を上げることに固執するのではなく、能動的に動く子どもたちを育てる教育を展開していかなければならない。</p> <p>子どもたちが自分で考え、能動的に動くようになれば、能動的に水戸に戻ってきてこんな仕事がしたいとか、水戸でこういうふうな役に立ちたい等の心も育つと思う。教育において、子どもたちが能動的に動く企画をたくさん組み、能動的な子どもたちを育てることによって、能動的に水戸に戻ってくるサイクルがうまく作れるといいのではないかと思うので、工夫していただきたい。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P15「ひとの創生」具体的施策2の「水戸スタイルの教育の推進」における事業概要として、「確かな学びと学習意欲を高めるチャレンジプランの推進」や「世界で活躍できる資質を磨くグローバルプランの推進」等を位置付けた。</p> <p>また、既存の事業の推進に加え、新たな具体的取組についても、本戦略を推進する中で、関係部署（教育委員会等）において検討していく。</p>	<p>教育研究課</p>
<p>[20] 二川委員</p>	<p>「まちの創生」具体的施策1の想定される主な事業と業績評価指数がマッチしていないような印象を受ける。医者を育てるために資金を貸与することよりも、病診連携の充実や、地域包括ケアをどういうふうに市内で充実させていくのが業績評価の指標になるのではないか。</p> <p>また、ボランティアの登録者数についても、例えば訪問看護ステーションのスタッフや介助するようなケアの方などの医療従事者を充実させていくことが指標になってくるのではないか。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P18「まちの創生」具体的施策1における指標として、安心できる充実した医療提供体制の維持・確保や地域包括ケアシステムの構築等の進捗と特に関係する指標である「在宅医療を担う医療機関数」、どれだけ生き生きと健やかに暮らすことができているかを包括的に示す指標である「健康寿命の延伸」を新たにKPIとして位置付けた。</p>	<p>政策企画課 高齢福祉課 保健総務課</p>
<p>[21] 保立委員</p>	<p>「まちの創生」について、第7次総合計画では、医療関係のことも含め幅広いものが盛り込まれているが、この戦略に全部盛り込むとむしろ重くなってしまって、何を目指すのかがよく見えなくなってしまうだろうという気がしている。</p>	<p>若い世代の移住・定住につながる取組は幅広いほか、本戦略に位置付ける事業が企業版ふるさと納税や関係交付金の対象となるという観点からも、本戦略は幅広い事業を位置付けるものとしていきたいと考えている。</p> <p>また、本戦略全体としては、若い世代の移住・定住の促進を目的とした「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」及び「シティプロモーション」に重点を置く計画として、メリハリをつけて事業の推進を図っていく。</p>	<p>政策企画課</p>

<p>[22] 任田委員</p>	<p>「まちの創生」の数値目標項目について、水戸市が住みやすいと感じる市民の割合と災害対策に満足している市民の割合を設定しているが、世の中はどんどん変わってきており、他の自治体との相対的な競争になってきている。</p> <p>そのため、大事なのはどうすればもっと住みやすくなるのか、どうすれば他の人に胸を張って勧められるかということを探り出し、洗い出していくことではないかと思う。</p>	<p>「まちの創生」における数値目標については、住みやすさに係る各施策の進捗を総合的に測る指標として、「水戸市が住みやすいと感じる市民の割合」及び「災害に強いまちづくりに満足している市民の割合」を位置付けている。</p> <p>本戦略における各施策の推進にあたっては、委員ご指摘を踏まえ、どうなればもっと住みやすくなるか、他の人に胸を張って勧められるかという観点を持ちながら、全庁的な連携のもと各施策を進めていく。</p>	<p>政策企画課</p>
<p>[23] 渡辺委員</p>	<p>「まちの創生」具体的施策2の想定される主な事業に、交通安全と防犯の充実があるので、このKPIに10万人当たりの犯罪発生率を入れることで、水戸が安全だということをアピールできるのではないかと。</p>	<p>委員ご指摘のとおり、P19「まちの創生」具体的施策2の数値目標として、10万人当たりの犯罪発生率は適するものであると認識している。</p> <p>しかし、本戦略では、各具体的施策の進捗状況を確認するうえで特に重要と考えられる指標を、KPIとして具体的施策ごとに2項目設定していることを踏まえ、主な事業や具体的取組と照らし、「防災訓練等への参加者数」及び「交通事故の発生件数」を位置付けたいと考えている。</p>	<p>政策企画課 交通政策課 防災・危機管理課 生活安全課</p>
<p>[24] 萩谷委員</p>	<p>「シティプロモーション」は他の項目と比べて少し内容が薄い気がしている。</p> <p>KPIに移住相談件数が設定されているが、これを増やすための具体的施策が明記されていない。</p> <p>先進事例である宇都宮市における移住者を増やすための様々な具体的施策等も掘り下げてみてはどうか。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P22「シティプロモーション」具体的施策1の「多様な手法によるプロモーションの推進」や「移住を後押しする施策の充実」等において、事業概要及び主な具体的取組に移住相談につながる各種プロモーションを位置付けた。</p> <p>また、移住者を増やすことを主目的とした具体的取組については、移住相談窓口の開設や移住フェア等への出展、移住支援金をはじめとした各種補助制度のPR等の既存事業の推進に加え、新たな取組についても、関係部署（政策企画課等）において、本戦略を推進する中で検討していく。</p>	<p>政策企画課 みとの魅力発信課</p>

<p>[25] 笹尾委員</p>	<p>KPI に入れるかどうか別にして、プロモーションの結果、テレビ取材やネットでどれぐらい取り上げられたかについて把握し、公開していくといいのではないかと。</p>	<p>本市においては、報道機関に対するニュースリリースによる記事掲載やニュース放送については毎日メディアを確認し把握している。また、ドラマ・映画・テレビ番組・ミュージックビデオ等の市を介したフィルムコミッションについては、直近1年程度のオンエア情報を市HP等にまとめ、SNS等でも発信しているところである。</p> <p>委員ご提案については、インターネット上は情報が膨大であることに加え、メディア取材においても、市を介さない取材等の把握は困難であることから、現時点での実現は難しいものであるが、発信することで、市民のシビックプライドの醸成等に寄与するものと認識しているため、関係部署（みとの魅力発信課等）において、本戦略を推進する中で留意する。</p>	<p>みとの魅力発信課</p>
<p>[26] 鬼澤委員</p>	<p>シティプロモーションを推進していく上で、若い力を大いに活用していただきたい。</p> <p>行政だけで考えようとするとうと限度があるが、小学生、中学生、高校生、大学生そして一般の方々も含めて、様々なアイデアを持っている。どんなことをどのようにしてPRしていくかなど、アイデアがたくさん出てくると思うので、若い力を活用する場をたくさん設けていく必要がある。それによって、若い人たちの自己肯定感が高まり、水戸にまた戻ってきたいと思うはずであるため、ぜひ若い力を活用するという視点で、シティプロモーションを展開していただきたい。</p>	<p>若い世代との協働によるまちづくりについては、シティプロモーションに限らず、すべての事業において重要であると認識している。そのため、本戦略においては、P16「ひとの創生」具体的施策3において「若い世代との協働によるまちづくり」を位置付けた。</p> <p>また、委員ご指摘を踏まえたシティプロモーションにおける取組については、既存の事業の推進に加え、新たな具体的取組についても、本戦略を推進する中で、関係部署（みとの魅力発信課等）において検討していく。</p>	<p>政策企画課 みとの魅力発信課</p>

<p>[27] 村中委員</p>	<p>「シティプロモーション」については、全体イメージを見ると、施策の柱の1から3を効果的に内外に発信していく施策として位置付けられており、重点施策にもなっているが、各施策とどのようにシティプロモーションが関わっているのか、その関係性が分かりにくいいため、表現を工夫した方がいい。</p>	<p>委員ご指摘を踏まえ、P5～の「Ⅲ 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化」のうち「2 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション」において、若い世代の移住・定住には、水戸の魅力を幅広く高めることのほか、居住地を変えるきっかけとなるライフイベントのタイミングにあわせ、一人一人が望む理想のライフスタイルに応じた本市の魅力を伝える戦略的なシティプロモーションが重要である旨を記載した。</p> <p>また、P21「シティプロモーション」における基本的方向でも、「まち・ひと・しごとの好循環」により高める水戸の魅力を、様々な視点から、わかりやすく魅力的に伝えることで、若い世代の移住・定住を促進する旨を記載した。</p>	<p>政策企画課 みとの魅力発信課</p>
<p>[28] 村中委員</p>	<p>「シティプロモーション」の数値目標で、若い世代の市民のうち、今後も水戸市に住みたいと思う人の割合を設定しているが、15歳から30歳の人に今後も水戸に住みたいですかと聞いてもなかなか本当のことが見えてこないもので、議論を踏まえ、水戸市に対する思いとか誇りなどを聞いた方がいいのではないかと考えている。</p>	<p>委員ご指摘のとおり、水戸市に対する愛着や誇りは、移住・定住において一つの大きな要因であると認識している。</p> <p>一方で、P2「基軸とする三つの視点」の「(2) 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出及びシティプロモーションの重点化」に記載したとおり、若い世代の移住・定住における地域の選択には、様々な要因が影響していることから、P21「Ⅳ シティプロモーション」における数値目標としては、それらを総合的に測る指標として、「若い世代の市民のうち、今後も水戸市に住みたいと思う人の割合」を位置付けたいと考えている。</p>	<p>政策企画課</p>
<p>[29] 三上委員</p>	<p>推進体制と進行管理は、主語が全て水戸市と思う。</p> <p>行政がお膳立てしたところに市民から意見をもらって、最終的に集約は行政で行うということになると、市民はお客さんになってしまうため、行政が枠組みを整えて、あとは市民に任せるといった取組があつていいと思う。</p>	<p>本戦略の推進体制と進行管理については、市における体制について述べているため、主語は市となっている。</p> <p>委員のご意見については、更にまちづくりを市民に任せる仕組みづくりの推進であると認識している。各具体的取組においては、市民と協働で進めていくものが数多く含まれているが、更に市民協働を推進するという観点から、本戦略を推進する中で、関係部署（市民生活課等）において検討していく。</p>	<p>政策企画課 市民生活課</p>

令和5年度第3回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議
委員からの質問事項等について

1 質問事項

No	委員	質問事項等	担当課
1		<p>全体について</p> <p>それぞれの目標値については、根拠を示せるようにしておくとうよいと思います。</p>	政策企画課
2		<p>資料7ページ「2 若い世代に水戸の魅力を伝えるプロモーション」について</p> <p>「若い世代と本市がつながり続けるプラットフォームを構築し、」とあります。この新たなプラットフォームとは、どのようなモノをイメージしておけばいいのでしょうか。</p>	政策企画課
3		<p>資料7ページ「2 若い世代に水戸の魅力を伝えるプロモーション」及び資料22ページ「若い世代のみとリターンの促進強化」について</p> <p>当日に説明があるかと思いますが、みとリターンのプラットフォームとはどのようなものなのでしょうか。</p>	政策企画課
4		<p>資料8ページ数値目標「実質市内総生産」について</p> <p>基準としている2020年度はコロナ禍で落ち込んだ年であると推察される。コロナ禍前のピーク時はいくらか。それに即してこの目標値はどの程度高いものか（意欲的な高い目標か、取組を着実に進めれば達成可能な目標か）。</p> <p>また、この目標を達成するために、p.9以下の各取組による効果をどれほどと考えており、その積み上げで実質総生産目標が達成できるというロジックの説明が必要ではないか。</p>	政策企画課 (商工課)
5		<p>資料8ページ数値目標「観光消費額」及び資料10ページ KPI「市内製造品出荷額」について</p> <p>物価上昇やコロナ禍からの回復という要因だけで、2019年度や2020年度の数字よりもそれぞれの金額は押し上げられると推測される。それぞれの目標値はどの程度高いものと考えているか（意欲的な高い目標か、取組を着実に進めれば達成可能な目標か）。</p>	政策企画課 (商工課) (観光課)
6		<p>資料9ページ「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」について</p> <p>現在これができていないのだとすれば、現在の取組の何が問題であると考えているか。若い世代にとって、どういう仕事や職場が魅力を感じるものだと考えているか。魅力を感じる働く場を創出するために行政として新たに取組もうとしていることは何か。記載された「主な事業」では従来の取組との違いが、今ひとつわからない。</p>	商工課 (政策企画課)

No	委員	質問事項等	担当課
7		資料9 ページ KPI について 2つの KPI の基準値について累計となっているが、いつから 2022 年度末までの累計であるか(起点はいつなのか)を示してほしい。	政策企画課 (商工課)
8		資料9 ページ「企業立地の促進」について 各誘致活動や用地の確保については、新たな戦略がありますか。	商工課
9		資料10 ページ「商店街活性化の支援」及び資料23 ページ「まちのデジタル化」について 産業ごとの特性にあわせたデジタル技術の導入の支援の具体的な案とは。また商店街のニーズを把握できているか。	商工課 (デジタルイノベーション課)
10		資料11 ページ KPI 「にぎわい交流人口」について KPI にある「にぎわい交流人口」という用語について、単なる「交流人口」とは異なる定義があるのか。	政策企画課
11		資料11 ページ「まちなかの活性化」について 「にぎわいづくり」「多様な活動」「魅力的なまちなかの空間づくり」とは、具体的にどのような姿を想定しているのでしょうか。	政策企画課 (新市民会館整備課) (商工課) (都市計画課) (市街地整備課) (泉町周辺地区開発事務所)
12		資料12 ページ KPI 「水戸市民会館来館者数」について KPI にある水戸市民会館来館者数のカウント方法を示してほしい。例えば自習に来る高校生はにぎわいの要素にはなると思うが、ここも含むのか。	市民会館 整備課
13		資料13 ページ数値目標及び資料14 ページ KPI について 現在の年間の出生数が約2,000 であるが、子育て世帯の動態が+50 になり、合計特殊出生率が徐々に1.78 になれば、一学年の子どもの数はどれくらいになるか(年少人口の一年平均の2,266 を達成できるのか)。それにより5年後の年少人口は34,000 人になるのか。整合的に目標値が設定されているか。	政策企画課
14		資料13 ページ数値目標「18 歳以下の子を持つ18~39 歳の子育て世帯の社会動態」について 「基準値7世帯減→目標値50世帯増」とありますが、達成可能な数値なのでしょうか。	政策企画課
15		資料14 ページ「子育て世帯の負担軽減」について 「安心と利便性を感じるこども・子育て DX 」の中に『相談』の文言追加は可能か。	政策企画課 (こども政策課) (子育て支援課)

No	委員	質問事項等	担当課
16		資料 14 ページ「妊娠・出産、小児・周産期医療等に係る支援の充実」について 「妊娠、出産に関する多様な支援」の中に『産後ケア』の文言追加は可能か。	政策企画課 (子育て支援課)
17		資料 15 ページ KPI 「いじめ解消率」について 対象とする学校はどこか。いじめ解消とはどういう状態なのか。 これまでも現在も解消率は 100%なのか。常時 100%が達成できているのだとすれば、ここに掲げるべき KPI なのか。	教育研究課 政策企画課
18		資料 16 ページ KPI 「大学生等を対象とした政策提言発表会への参加者数」について 目標は 10 組でよいのか。取組方法次第で大きく増やすことは可能だと思われる。	政策企画課
19		資料 17 ページ及び資料 21 ページ数値目標について p. 17 の住みやすいと感じる市民の割合、p. 21 の住みたいと思う人の割合に関する調査は、毎年のように行われるのか。あるいは 2028 年度には確実に行われるのか。	政策企画課
20		資料 18 ページ KPI 「健康寿命の延伸」について ここに上げられているのは、健康寿命の数値か。それにしては高いように思える。	高齢福祉課
21		資料 18～19 ページ「地域で支え合い、助け合う環境づくり」について 自治会加入促進で現在水戸市でも取り組んでいるとは思いますが、今年元旦に発生しました能登半島地震、我々も経験している 2011 年の東日本大震災等の有事を踏まえ、地域とのつながりを積極的に推進、支援してはいかがでしょうか。既に取り組んでいる自治会もあるとは思いますが地元につながる伝統文化行事活動、高齢者や子どもに関するイベント、防災訓練等近所づきあいの意識も高め、そこから得る事は多大なるものだと思います。また地域の活性化にもつながるはずで 本市における見解をお伺いいたします。 (活動事例) ごみ集積所の維持管理、地域清掃、資源回収 防犯パトロールの実施 防災訓練、防災備品の備蓄 防犯街灯の管理 高齢者や子どもに関するイベント 地元につながる伝統文化行事活動 広報活動、募金活動 集会所等の運営、管理 等々	市民生活課 (防災・危機管理課)

No	委員	質問事項等	担当課
22		<p>資料 21～22 ページ「移住を後押しする施策の充実」について</p> <p>少子高齢化により人口減少が急速に進行している中、東京圏への一極集中の傾向が継続し、若年層を中心として地方から東京圏に人口が流出していること等により、水戸市における人口、特に生産年齢人口が減少しています。このため、地方においては、地域社会の担い手が減少しているだけでなく、消費市場・地方経済が縮小する等、様々な社会的・経済的な課題が生じています。この状況が継続すると、人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が更に人口減少を加速させるという負のスパイラルに陥ることになります。本市におきましての現在の具体的な取り組み、今後の取り組みをお伺いいたします。特に水戸の暮らしを体験する移住体験事業について詳しくお伺いしたいです。</p>	政策企画課
23		<p>言葉の使い方について</p> <p>目指す姿で使われている「一人一人」について質問です。文科省が広めた（個を生かすという視点にマッチした）「一人ひとり」との違いを意識しているのでしょうか。</p> <p>総合戦略の目指す姿や基本目標で使われる「MITO」、シティプロモーションで使われている平仮名の「みとりターン、みとアンバサダー」、その他総合計画をはじめ一般的に使われる漢字の「水戸」。これら三種類の水戸の使い分けにはどのような意味あいがあるのか、参考までにご教示願います。</p>	政策企画課

2 意見

No	委員	内容	担当課
1		<p>資料 9 ページ「企業立地の促進」について</p> <p>市が率先して計画的・戦略的に施策を展開していくことで、企業誘致の原動力となってくださることを願います。</p>	商工課
2		<p>資料 11 ページ「芸術文化の振興」及び資料 15 ページ「豊かな心を育む文化教育の推進」について</p> <p>10 年、20 年先の芸術文化を支えていける人材の育成は重要。特に子供たちへの体験を含めた教育の推進を。</p>	文化交流課
3		<p>資料 14 ページ「安心して子どもを生み育てることのできる環境の充実」について</p> <p>「結婚支援→妊娠・出産支援→子育て支援→教育支援」とそれぞれ所管は違っても、切れ目のない心的・経済的支援をしていくことが若い世代の安心感につながると思います。連続性のある支援体制を構築してください。</p>	こども政策課 教育研究課

No	委員	内容	担当課
4		<p>資料 15 ページ「未来を生きる力を育む魅力ある教育の推進」について</p> <p>「水戸スタイルの教育の推進」では、学力を上げ、いじめのない学校を実現するには、学校の働き改革を推進し、子どもとしっかりと向き合う時間を確保すること、そして先生方が授業力をアップできるように研修する機会を投じていくことが重要です。そのためにも、指導機関である水戸市総合教育研究所の職員を増やし、研修体制を充実させるとともに、各学校への支援体制も構築していく必要があります。</p>	教育研究課
5		<p>資料 15 ページ「未来を生きる力を育む魅力ある教育の推進」について</p> <p>「多様な教育活動を支える体制の充実」では、中学校における校内フリースクールを有効活用するために、指導員を確実に配置できるようにしてください。</p>	教育研究課
6		<p>資料 16 ページ「こども・若者が活躍できる機会の創出」について</p> <p>「若い世代との協働によるまちづくり」では、小学生から中学生、高校生、大学生が、子ども会議や施策提案を通じて、水戸市づくりにかかわることが出来るシステムを構築することが、水戸の未来を担う若い世代を育てることにつながると思います。</p>	政策企画課 みとの魅力発信課
7		<p>資料 18 ページ「生き生きと健やかに暮らせる環境づくり」について</p> <p>「生涯にわたって生き生きと暮らせる環境づくり」では、「地域コミュニティ活動の活性化」が喫緊の課題だと思われまます。「孤独・孤立」を避けるためにも、地域コミュニティの再構築に市を上げて取り組まれることを期待します。</p>	市民生活課
8		<p>資料 19 ページ「安全に暮らせる環境づくり」について</p> <p>「危機管理・防災対策の充実」では、「あらゆる事態に対応できる危機管理体制」をつくるために、「想定外」ということがない防災計画を予め準備しておく必要があります。そのためにも、あらゆる事態を想定した計画を作成し、随時見直しをしながら、避難訓練も含め、全市的な取組をしていくことが、一人一人の市民の命を守ることににつながると思います。</p>	防災・危機管理課
9		<p>資料 22 ページ「若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション」について</p> <p>「移住を後押しする施策の充実」では、移住体験や職業体験など、様々な工夫を凝らした水戸市を体験する機会を数多く実施することが有効だと思います。</p>	政策企画課

No	委員	内容	担当課
10		<p>デジタル田園都市国家構想交付金について</p> <p>全体的にはバランスのとれた良い戦略素案が整理されていると感じます。「若い世代の移住・定住の加速化」、「創業・スタートアップの促進」、「情報産業の誘致」など、課題認識や方向感について、正にその通りだと思います。</p> <p>問題は、どのような事業について、交付金を用いて推進していくか。他の自治体に先駆けていくことができるか（若い世代にアピールできるか）だと考えます。</p> <p>最新の人口動向をみると、水戸市は社会増を保っているものの、県全体でみると、やはり県央県北地域の落ち込みが目立ちます。</p> <p>水戸市の社会増は県央県北地域に支えられている面が強いと思われます。水戸市としても県央県北エリア全体の魅力向上が重要課題だと思われます。デジ電交付金事業においても、「広域連携型」で何ができるか、よく検討していただいて、多くの事業を立ち上げていって欲しいと思います。</p>	政策企画課